

可認局遞驛

第壹
年級

英吉利法律講義錄

第二拾六號

英吉利法律學校



二十年三月十二日發兌

目次

○新年宴會祝詞 (第二十四號續)

○訴訟法 (第二十二號續)

○判決錄 (第二十三號續)

○組合法 (第二十四號續)

○論理學 (第二十二號續)

○羅馬法沿革史

○契約法 (第二十三號續)

○經濟學

心りすたる

法學士

法科學士

卒業生

法學士

文學士

法學士

法學士

增島六一郎

石山彌平筆記

植村俊平

畔上啓策筆記

松野貞一郎

同

坪井九馬三

同

澁谷慥爾

同

土方重寧

山口正毅筆記

駒井重格

同

美無缺ナル良法ヲ起スヲ得ヘシト惟フニ日本ノ法律ヲ業トスル者
 モ亦此大業ニ當ルヘシ余カ見ル所ニヨレハ實ニ能ク之ニ當ルニ足ル
 ナリ(喝采)

リッチフ井ールド氏ハ左ノ如キ答辭ヲ述ヘタリ

余ハ此祝詞ニ對シテ答謝ヲ述フルノ高榮ヲ得頗ル自ラ誇ルニ足ルア
 ルヲ覺ユ何トナレハ此祝詞ハ日本司法々庭ノ一紳士カ賜ヒタル所ノ
 モノナレハナリ抑、代言人ト法庭トハ互ニ相待テ全キモノナレハ兩者
 ノ平衡ヲ得ルニ非サレハ公正ノ判決ヲ爲サントスル法庭ノ盡力モ訴
 訟人ノタメニ可成的ノ利益ヲ得シメントスル代言人ノ盡力モ多ク徒
 勞ニ屬スルコアルヘキハ余カ信シテ疑ハサル所ナリ法ニ據リテ曲直
 ナ判定スルハ法庭ノ任ナリ辯論陳述以テ訴訟人ノ利ヲ計ルハ代言人
 ノ職ナリ

余ハ初メ答辭ヲ述フヘキ旨ヲ求メラレタル時安坐シテ余カ爲シ得ヘキ的ノ準備ヲ爲サントセシカ半ニシテ以爲ラク今夕此祝宴ノ席ニ於テ法庭又ハ代言人ノ來歴ヲ述フルハ諸君ノ望マサル所ナルヘシト之ニ由リテ遂ニ準備ヲ爲サス殊ニ夫ノ公論ノ贊翼ヲ得ル強勢ナル法庭カ能ク法ノ正ヲ失ハサル所以ノ理ヲ證明セントセハ遠ク古代ノ史乘ニ溯ラサルヘカラス從ヒテ說話廣大ニ過クルノ恐アリ幸ニ合衆國公使ハ法律ノ知識ノ事ヲ演說セラレタレハ余ハ只右演說ニ一奇話ヲ添ヘン

曾テ近傍ノ居留地ニ於テ丁抹人毆打罪ノ訴ヲ受ケ其領事廳ニ出庭セリ此丁抹人ハ三ノ愚ナル所行アリ第一ニ某夫妻ノ間ニ不法ナル干涉ヲ爲セリ何トナレハ該夫カ其妻ヲ鞭撻シタルヲ見テ該夫ヲ鞭撻セリ第二ニ自己ノ辯護ヲナスニ辯護人ヲ用弗ス第三ニ斯カル不幸ナル場

合ニアリテ却テ之ヲ誇リタリ由リテ領事ハ之ヲ審問ノ末判決ヲ下サ
ントシタレトモ奈何セシ此領事ハ英國人ニシテ當時丁抹領事ノ職ニア
レトモ毫モ丁抹ノ法律ヲ知ラス然レトモ幸ニ同様ノ事件ヲ記セル書藉ア
ルヲテ記憶シ居レリ蓋シ幼時ニ聞知セシコナルヘシ乃裁判ノ前夜丁
抹公ハムレットノ譚ヲ通讀シ之ヲ無二ノ智識ト頼ミテ出庭スルヤ否ヤ
理由ヲモ究メス直ニ犯人ニ五百弗ノ罰金ヲ科セリ(笑)
諸君ヨ更既ニ深ケレハ余ハ敢テ他事ヲ述ヘサルナリ余ハ増島君其他
此英吉利法律學校ニ關係アル諸君カ成功ノ著シカラシコトヲ祈リ又日
本法庭ニ於テ實地ノ業ヲ執ル英國狀師日本代言人并ニ日本司法官ノ
互ニ相親和シテ友誼ノ深カラシコトヲ切望スルナリ(喝采)
次ニ檢事山田喜之助氏ハ左ノ英語演述ヲ爲セリ
貴紳諸君ヨ余ハ茲ニ蕪辭ヲ呈スルノ榮ヲ得日本刊行ノ邦語新聞及外

國新聞ノ事ニ就キ數言ヲ陳ヘント欲スルナリ抑、新聞ト法律ハ開明社
會ノ存在ニ必要ナルニ大要具ナリ蓋シ生命、身体、自由、財産其他集合
ナリ分離体ナリ總テ吾人ニ有要ナル万般ノ事物ヲ保護スルタメニ生
シタル孖姉妹ト稱スルモ可ナリ現今我國ノ新聞ハ其業務上ニ種々ノ
困難アルニモ拘ラス重要ナル場合ニ於テハ其善良ナル志望及節操灼
然トシテ顯ハル其敬重スヘキ目的ト進歩ノ實蹟トニヨリテ考フレハ
其將來ノ光榮昌盛疑フヘカラサルナリ余ハ茲ニ其成功ノ充分ナラン
コトヲ祈リ且祝シ併セテブリンクレイ君ノ健康ヲ祝ス(喝采)

次ニブリンクレイ氏ハ左ノ如ク演述セリ

會長其他ノ諸君ヨ余ハ本夕豫ネテ雄辯ノ聞アル福澤君ノ演説ヲ拜聽
センコトヲ冀望セシカ計ラス同君ノ不參ニ由リ山田君ノ懇篤ナル祝詞
ニ對シ報答スルコトヲ請求セラレタリ然レモ余ハ豫メ此演説ノ準備ヲ

爲サス加之新聞記者ヲ代表スルモ身不肖ナルヲ以テ固ヨリ諸君ノ望
ヲ滿タスヲ得ス請フ之ヲ諒セヨ
諸君ヨ新聞ハ開明人社ノ思想ヲ研磨シテ宛モ正味ノ穀物トシテ之ヲ
公衆ニ與フル一大機械ノ如シト言フモノアリ此比喻ハ稍過大ニ失ス
ルカ如シト雖モ若シ之ヲ日本國ニ適用シ得ヘシトセハ今日々本ノ外
字新聞ハ此一大機械ノ如何ナル部分ニ恰當スヘキヤ好シ其樞軸ニ匹
當スルモ又安全蓋ニ恰當スルモ其効用ハ蓋シ穀物ノ殼皮ヲ脱スルニ
アリト看做サ、ルヘカラズ諸君ヨ余ハ今祝詞ニ答謝スルノ榮ヲ得此
答謝ノ榮務ノ外字新聞記者ニ與ヘラレタルヲ喜フナリ何トナレハ之
ニ由リテ會長并ニ其同盟ノ諸君カ内外國ノ別ニ論ナク新聞ヲ尊重ス
ルノ意ヲ表セント欲セラル、ヲ知リ得ヘク又他ノ事物ニ於テモ日
本ハ其自ラ奮發熱心シテ得タル所ノ開明ヲ助クル者アレハ國ノ内外

ナ問ハス喜ヒテ之ヲ厚待スルノ意アルヲ知リ得ヘケレハナリ(賞賛)惟
 フニ此校ノ諸君ノ精神此ニアルヲ知リ得ヘシ殊ニ此校ハ余カ今夕代
 表スル地方樞軸ヲ引ク前ノ比喩ノタメニ其進運ヲ助ケラレタリト謂フヘカ
 ラサルヲ見レハ諸君カ私恩ノ有無ニ關係ナク能ク新聞ヲ重シ國運補
 助者ヲ厚待スルノ心事實ニ贊嘆スルニ堪ヘタリ(笑)他ノ點ニ於テ稍、今
 夕ノ祝詞ニ密接ノ關係ヲ有スル慶賀ヲ呈スヘキ事アリ是他ニ非ス日
 本ニ於ケル新聞記者ト法律家トノ間ニ親密ノ友誼ノ増進セルヲ是ナ
 リ抑々大不列顛及合衆國ニアリテハ新聞ト法律ト相助クルノ多キヲ論
 事俟タス有名ナル法律家ハ皆曾テ新聞ノ投書家ナラサルナク新聞モ
 亦法律家ノタメニ早時ノ困難ヲ救ハサルナシ此助力ナケレハ法律家
 モ埋没シテ永ク其名ヲ世ニ知ラレサルヘシ星光アリト雖モ地平ノ下
 ニアラメノミ(笑)余ハ日本ノ新聞ト代言トノ間ニモ斯ク相互ノ助力ノ

行ハレソコヲ望ミ且信スルナリ新聞ト法律トノ間ニハ尙一層高尙ニ
シテ密着ナル關係アリ夫レ法律ハ猶累世ノ困難經驗ヲ經テ凝結シタ
ル開明智識ノ結晶体ノ如シ而シテ新聞ハ猶日常生活ノ鑛坑中ヨリ此
開明智識ヲ熔出シテ立法家及政治家ニ供給スル火ノ如シ(賞賛)法律ト
新聞トハ斯ノ如キ密着ノ關係アルモノナレハ其相助クルノ多キト亦
得テ極マリアルコトナシ殊ニ日本ニ於テハ新聞ト法律トハ同時ニ出產
シ同時ニ發育スル双子ト謂フヘキ關係アリ日本ノ新聞ハ其發生以來
僅々數年ニシテ驚クヘキ發達ヲ爲セリ其初ハ哲學ト漢學ノ古衣ニ纏
ハレタル嬰兒ナリシノミ而シテ今ハ尙壯丁ノ齡ニ達シタリト謂フヘ
カラサルモ既ニ自製新調ノ衣服ヲ裝フコトヲ得タリ然レモ今後尙百難
ニ耐ヘ以テ充分ノ發達ヲ致スヘキ地位ニアリ其既往現今ノ才識勇氣、
忍耐ノ盛ナルヲ見レハ將來ニ美果ヲ得ンコト蓋シ疑フヘカラス願ハク

ハ此新聞事業ヲシテ速ニ大勝ヲ得シメヨ又願ハクハ此帝國ノ新聞ト法律ヲシテ彼此相助ノ密誼ヲ有セシムルコト猶夫ノ自由ノ母子ト稱セラル、英米二國ニ於ケルカ如クナラシメヨ

ハンネン氏ハ左ノ如ク演述セリ

余ハ今僅ニ數言ヲ述ヘント欲スルノミ此更ニ及ヒテ諸君ハ必ス余カ演辭ノ短キヲ喜ハル、ナルヘシグレトハウス君ハ英吉利法律學校ノ生徒カ學業ニ熱心ニシテ品行優等ナル旨ヲ説キ又増島君ハ同校昌盛ノ景況ヲ報セラレタリ此二報告ニヨリテ將來ヲ推測スレハ此校ノ成績著シクシテ益昌盛ナルヘキコト疑ナシ吾人ハ一同其實際ニ然ランコト切望スルナリ吾人ハ茲ニ増島君并ニ君ト協力スル諸君ノ事業ヲ贊助セント欲スルモノナリ増島君カ日本ノ法律家等ニ英米法律ノ知識ヲ與ヘント力ムルヤ實ニ切ナリ吾人何ソ之ヲ贊翼セサランヤ誰カ

又吾人カ賛翼ノ意ヲ疑フモノアラシヤ
吾人ハ今夕米國法律家ノ事ヲ説ケルニ雄辯ヲ聽クヲ得タリ然レモ
余ハ諸君カ毫モ英國ノ事ヲ聽カサランヲ恐ル、ナリ又余ハ今茲ニ
英國法律ノ大陸諸國ニ優ル所以ヲ述ヘント欲スルモ僅ニ一二ヲ舉ク
ルニ過サルヘキヲ恐ル、ナリ其一二トハ何ソヤ一ハ法律其物ニ關
シ他ハ司法ニ關ス英國カ最長スル所ノ法律其物トハ何ソヤ即證據法
是ナリ諸君ヨ日本將來ノ司法官トナルヘキ法律家ニ服膺セシメ得ヘ
キ諸君ヨ諸君ハ日本ノ法律家ヲシテ大陸ノ法律中ニ一ノ缺點アルコ
ヲ知ラシムヘシ又日本法律ヲ改良シ且日本法律從來ノ起草法ヲ改良
スルタメ吾人カ一同此國ニ適用セシメンコトヲ望ム所ノ良法アルコト
會得セシムヘシ試ニ諸外國ノ裁判法ヲ看ヨ裁判ニ時間ヲ費スコト多
キヲ見ヨ又無關係ノ論辯ヲ提出スルヲ見ヨ齟^{エツ}リテ又吾人カ能ク裁判

ニ必要ナル箇條ヲ摘舉シ不必要ナル事ヲ提出セサルヲ見ヨ吾人ノ法
 チ執ルヤ是ノ如シ故ニ裁判速ニシテ其正ヲ失セス且數多ノ判決ヲ爲
 シ得ヘシ諸外國ノ法律ト雖モ我英國ノ法律ニ優ル所少カラズ然レモ
 單ニ諸外國ノ法律ノミニ遵據スルモ英國ノ如ク數多ノ事件ヲ判決
 シ裁判速ニシテ且良好ナルヲ得サルナリ余ハ之ヲ以テ日本法律家
 諸君カ此事實ヲ記憶シ此英國ノ良法ヲ學修研究シ以テ日本法庭ノ改
 良ヲ計ラレンコトヲ切望スルナリ更ニ進ミテ吾人カ長所タル他ノ一事
 ナ述ヘンニ英國各法庭ニ於テハ二名以上ノ裁判官各其意見ヲ陳述ス
 是諸君カ宜シク摸倣スヘキノ制ナリ抑衆論ヲ參驗スルノ利益ニアリ
 第一ニ適用スヘキ法律ノ解釋ヲ密ニシ第二ニ裁判官ノ才能知識ヲ試
 ミ有爲ノ器ヲ拔擢スルコトヲ得ヘシ然レモ此法ハ果シテ之ヲ高等法庭
 ニ適用スヘキモノナルヤ否ヤ余ハ未ダ之ヲ斷言スルコトヲ得ズ然レモ

私ニ思フニ法律ヲ判定スル終審法庭ニ於テハ判決ハ必確固ナラサル
可カラス此判決ハ少數ノ決ニヨリ定ムヘカラス法律ノ判定ハ必多數
ノ決ニヨラサル可カラス云々ノ説モ或ハ其當ヲ得タルモノナランカ
余ハ今之ヲ斷定セサレヒ之ヨリ以下ノ法庭ニアリテハ一事件ノ生ス
ル毎ニ裁判官互ニ其意見ヲ開陳スルノ制ハ極メテ必要ナリ
余ハ茲ニ言ヲ止ムヘシ然レヒ以上ニ述ベタル二事ハ甚必要ナリト信
ス余ヤ此良法ヲ日本ニ適用センヲ望ミ又今夕參集ノ諸君カ此ヲ適
用スルヲ盡力セラルヘシト信シ且望ムナリ若シ此英吉利法律學校
ニシテ吾人カ冀期スル如ク昌盛ナランニハ此校カ他日々本司法ノ一
大原素トナリ又余カ前陳ノ二事ヲ以テ日本法律ヲ改良スルノ期アル
ヘキコト是亦余カ信シテ疑ハサル所ナリ之ヲ以テ余ハ依頼ヲ受ケタル
祝詞ヲ斷乎トシテ述フルナリ英吉利法律學校昌盛万歳喝采

テ重モニ其代理官ヲ以テ之ヲ行フ
 次ニ論スヘキハはうすねふろゝる也即チ華族院ニシテ立法部ナリト
 雖モ歴史上ノ沿革ヨリシテ裁判事務ヲ取扱フニ至リシナリ而シテ其
 職務ハ我大審院ノ如ク専ラ法律ノ裁判ヲ爲スモノニシテ事實ノ裁判
 ナ爲スモノニアラス又其判裁長ハゝるゝるとちやんせろゝる即チ大法
 官ニシテ其附属判事ハ同職員中法律碩學ノ者又ハ曾テ判事ノ職ニ在
 リシ職員ヲ以テ之ヲ任ス其年俸三万圓ナリ

第二回

前回ニテハ英國裁判所ノ構成及ヒ權限等ヲ説キシカ今回ハ其構成權
 限等ヲ規定スル處ノ法令ハ如何ナル處ヨリ發布スルカナ説カントス
 英國ニテ裁判所構成ノ如キハ最モ大切ナルヲ以テ議院ノ議決ヲ以テ
 定メタル布告ニ從ヒ其細則ハ判事之ヲ議定スルナリ日本ニテハ司法

上ニ關スル布告ハ總理大臣及ヒ其主務省ノ長官カ天皇陛下ノ旨ヲ享
ケテ布告シ主務省ハ之ニ關スル細則ヲ作ルナリ故ニ司法上ニ關スル
法律ノ布告アルニ方リテハ司法省カ其細則ヲ編制スルヲ以テ規則ト
ス治罪法訴訟法ノ手續ノ如キ是ナリ
斯クノ如ク我日本ニ在リテハ司法省カ其細則ヲ作ルヲ以テ通例トナ
セトモ余ノ信スル所ニ依レハ英國ノ如ク裁判事務ニ熟達セル所ノ判
事ヲシテ之ヲ議定セシムルトキハ大ニ實地ノ便益ヲ得ヘシト思考セ
リ併シ是等ノコトタル其國々ノ制度及事情ニヨリテ異ニシテ英國ニ
可ナルモ日本ニ不可ナルヤ知ルヘカラサルモ當時止ムヲ得サル事情
アリテ判事ニ委任スルヲ得サレハ格別裁判事務ニ密接ノ關係アル細
則ノ如キハ判事ヲシテ規定セシムルヲ可トスヘキナリ

第一節 裁判所ノ權限

英國高等裁判所ハ控訴及始審ノ二アリ始審裁判所ハ更ニ三箇ニ區別セラル、コトハ前既ニ説ク所ナリ而シテ其區別タル歴史上ノ沿革ヨク來リシト云ヒシモ現在ニ於テ尙ホ存在スルハ實際便宜ナリト云フニ過キサルナリ元來英國ノ風トシテ凡ソ事ノ改正ノ後ニ至リテモ尙其跡ヲ存在セシムルコトアルハ其實地ニ長スル所以ニシテ日本人カ英吉利法律ノ講義ヲ聽クモノ、爲メニハ高等裁判所各部ノ司トル所如何ナルヤヲ説述スルノ必要アリ余ノ諸君ニ望ム所ハ審ニ邦語ノ講義而已ニ満足セズシテ遂ニ英米ノ原書ニ據リ法律ヲ研究シ以テ其精神ノアル所ヲ探討セラレシコトニアレハ茲ニ之ヲ説カントス既ニ述フル如ク英吉利法律ハ「こトド」アルニアラス故ニ其善美ナル所ヲ知ラント欲セハ學者ノ著書ヲ讀ムノミチヲ以テ足レリトセス其法理ノ據テ來ル所ノ判決例ヲ穿鑿セサルヘカラス然ラハ如何ニシテ其判

決ノ據ル所ヲ穿鑿スルカト云フニ裁判所ノ名ニ據テ以テ種々ノ判決
 例ヲ發見スルモノナリ即チ夫ノ「くいんすべんち」「あどみらるち」ノ如キ
 各其名ニ據リテ其裁判例ヲ穿鑿スルノ道アルノミ故ニ英吉利法律ヲ
 學フ人ニアリテハ以上ノ區別ヲ知ルハ最モ要用ナリト謂フヘシ併シ
 ナカラ余ハ深ク其沿革歴史ニ遡リ其原因由來ヲ説クヲ欲セス是レ蓋
 シ無益ナルノミナラス訴訟法ニアリテハ現行規則及ヒ之ニ關スル細
 則ヲ學フニアレハナリ
 諸君ハ英吉利法律ニテ訴訟ヲ取扱フノ機會ナク又在日本ノ英國裁判
 所ニ出訴スルコトアルモ英國倫敦ナル裁判所ノ區別アルニアラス之
 チ學フニ方リ或ハ望洋ノ嘆アリ或ハ無益ナリトノ感ナキニアラサル
 モ之ヲ學フコトノ必要ナル理ニ至リテハ一ナリ凡ソ訴訟ヲ取扱フニ方
 リテハ間違タル裁判所ニ出訴スルコトヲ得サレハ何等ノ裁判ハ如何

ナル高等裁判所ノ權限ニ屬スルカヲ知ラサルヘカラサレハナリ加之
裁判所ニ依リテハ甚タ便不便ナルノ利害アリ必シモ古來ノ慣習ノミ
ナラス據テ以テ如何ナル裁判所ナレハ便ナルカ不便ナルカヲ察セサ
ルヲ得サルナリ
第一ニ「くいんすべんちでびえよん」ハ先ツ刑事ヲ掌リ其他民事ニアリ
テハ大概之ヲ司トルト雖モ重モニ掌トル所タル「こんもんろ」ヨリ起
リシ權利義務ノ審判ヲ司トルナリ故ニ第一田地ノ爭論又ハ其田地ノ
占有ヲ掠奪セラレタルニ付キ之カ取戻ヲ訴フルトキ其他財産取戻ノ
訴第二ハ身体ニ對シテ害ヲ加エタルトキ損害賠償ノ訴第三契約ニ關
シテ爭ノ起リシ時第四動産ノ所有ヲ妨ケ又ハ害ヲ加エ或ハ不動産ニテ
モ田地ニ害ヲ與ヘラレタル時是ナリ故ニ之ヲ大別スルトキハ財産權ニ
關スル訴訟私犯ニ關スル訴訟契約ニ關スル訴訟ノ三種トナスヲ得ヘシ

第二ニ「ちやんせれ」でびじよん「ノ」司トル所ハ重モニ面倒ナル手續ヲ
 要スル場合ト云フヲ得ヘシ何トナレハ法律沿革論ヲ閱讀セラル、人
 ハ知ル如ク凡ソ法律ハ其初メ慣習ニ基キシモ漸次不足ヲ覺フルニ從
 ヒ衡平又ハ「ひくしよん」ニ據リテ之カ改良ヲ爲スナリ之ヲ英國ニ照セ
 ハ英國ニハ先ツ「こんもんろ」アリテ其實行ハ裁判所アリ其構成タル
 古昔ニアルヲ以テ其權限狭クシテ其保護スル所小ナルカ故遂ニ衡平
 ナ實行スル所「ちやんせれ」ハ裁判所ヲ生スルニ至レリ今何故ニ其
 生ジタルカヲ尋ヌルニ「こんもんろ」ニテ可ナルモノトスルモ尙其出
 廷セル訴訟人「ちやんせれ」ハ裁判所ノ命令ヲ聽クノ責アリ故ニ若シ
 之ヲ聽カサレハ罰ヲ科スルト云フニアリ即チ其公事ニ立入ラサルモ
 其相手ニ對シテハ云々ノ事ヲ爲スヘシ爲スヘカラスト命スルノ權限
 ハ「ちやんせれ」ハ裁判所ニ存スト云フニアルナリ

此ノ如クシテ「ちやんせれ」裁判所ノ司トル所ハ更ニ「こんもんろ」ノ
 權利ヲ補フカ又ハ「こんもんろ」ノ裁判所ニテハ充分ナル救正ヲ與フ
 ルヲ得サルヲ以テ之ヲ補フト云フニアリ故ニ「ちやんせれ」裁判所ハ
 社會ノ進ミタル時ニ起リテ他ノ救正ヲ爲スニアルヲ以テ今其司トル
 所ヲ擧クレハ財産處分ノ訴訟即チ債主財産分配ノ爭遺産處分計算要
 求ノ訴組合商社抵當處分ノ訴又ハ組合商社ノ約束ヲ解クコト不動産
 質取主カ質置人ニ元金利子入費等ノ償却ヲ請求スルコト又ハ負債主
 カ元金利子入費等ヲ拂ヒタルヲ以テ書入物ノ取戻ヲ請求スルヲキ又
 親ノ遺産ノ割賦ヲ要求スルコト或ハ田地ヲ分割スル訴訟財産管護ノ
 事柄ヲ實行スルノ訴又ハ正實約定書ノ取消改正或ハ契約ノ實行ヲ請
 求スル訴訟等皆「ちやんせれ」でビ「よん」ノ管理スル所ナリ
 「ちやんせれ」でビ「よん」ノ司トル所大畧此ノ如シト雖モ其詳細如何

日本裁判所ノ種類

ニ付テハ諸君カ財産法又ハ其他ノ法律ヲ學フニ付一々瞭解セラレハケレハ之ヲ畧ス

第三ニ「ぶろへー」とで不「すゑんど、わどみらりち」でびトよん「ハ元來三箇ノ裁判所ヨリ成リジモノニシテ「ぶろべー」とこ」と「ハ死者ノ遺産分配ヲ司トリ」で不「すこ」と「ハ婚姻ノ正否又ハ離婚ノ許否ヲ司トリ」わどみらりち「こ」と「ハ船舶ニ關スル事柄ヲ司トルモノナリシカ一

千八百七十六年此三廳ヲ合シテ高等裁判所ノ一部トナスニ至レリ尙ホ其詳細ナルハ前學年ノ講義ニアルヲ以テ之ヲ畧ス

以上コテ英國裁判所ノ大畧ヲ説了シタリト信スレハ是ヨリ日本裁判所ノ種類ヲ講述セン

日本裁判所ノ種類

裁判所ノ種類ニ就テハ全ク日本現時ノ裁判所ヲ引用シテ論セントス

即チ其種類左ノ如シ
第一治安裁判所 第二始審裁判所
第三控訴裁判所 第四大審院
第一治安裁判所ニハ二箇ノ職掌アリ即チ一ハ百圓未滿ノ訴訟ニ對シ
法律ノ裁判ヲ下スコト二ハ凡ソ出訴セシトスルニ當リ法律ノ令ナル
如ク成ル丈ケ先ツ之ヲ治安裁判所ニ提出シ以テ其勸解ヲ受ケシムル
コト是レナリ然リ而シテ其勸解ヲ受ケルノ事件ハ固ヨリ金額ノ多少
ニヨリテ制限ナキモノトス又勸解ノ結果ハ多クハ不調ニ終ルモノト
ス然レトモ若シ或ハ提出セル事件ニシテ示談ヲ調ヒ後チ再ヒ之レニ
服セサルコトアルモ治安裁判所ハ之ヲ制スルノ權力ナキモノトス又
事ノ種類ニ依リテハ必スシモ勸解ヲ要セサルノ場合アリ事ノ緩急ヲ
爭フモノ或ハ物ノ湮滅ヲ恐ル、如キ是ナリ又新規則ニ依リテ登記ノ

コトヲ爲スモ是寧ロ司法上ヨリハ行政ニ属スルヲ以テ茲ニ略ス
 第二始審裁判所ハ百圓以上又ハ定額ニ見積ルヲ得サル事件ノ始審裁
 判ヲ下タシ又治安裁判所ニ於テ判決ヲ經タル百圓未滿ノ訴訟ニ對シ
 之レカ控訴ヲ受理スルノ權アルモノトス
 第三控訴院ハ始審裁判所ニテ始審ノ審理ヲ遂ケシ判決ニ對シ之レニ
 服セサルトキハ其覆審裁判ヲ下タスモノトス
 第四大審院ハ始審裁判所ニ於テ覆審シタル所ノ控訴裁判又ハ控訴裁
 判所ノ裁判ヲ以テ裁判所管理ノ權限ヲ越エ聽斷ノ定規ニ乖キ及ヒ法
 律ニ違フタルモノトシ其取消ヲ求ムルノ上告ヲ審理スル所トス而シ
 テ之ヲ是非シ以テ直ニ之ヲ裁判ヲ下シ又ハ之ヲ他ノ控訴院ニ移シ再
 理セシムルノ言渡ヲ爲スモノトス此他諸裁判所ニ於テ縣知事郡區長
 戶長等ノ如キ行政官吏職務上ニ就テノ訴訟ヲ裁判スルコトアリト雖

裁判權

モ是レ茲ニス論ヘキ者ニアラサルヲ以テ次ナル題目ニ移ルヘシ
 以上説ク所ヲ以テ第一裁判所ノ構成如何ヲ知得シ又裁判所ノ種類ハ
 如何ナルヤヲ述了セリ故ニ次ニ其裁判所ニ於テハ如何ナル權力アル
 ヤ即チ一般ノ裁判權ト特別ノ裁判權トヲ區別スヘシ
 裁判權ヲ分テ一般ノ裁判權特別ノ裁判權トス
 一般ノ裁判權ヲ有スル裁判所ハ廣キ裁判權ヲ有シ即チ特別ノ法律ヲ
 以テ禁セラレシ以外ノ判決ニ付テハ如何ナル事件ト雖モ之ヲ受理ス
 ルモノトス特別ノ裁判權ヲ有スル裁判所ハ狹キ裁判權ヲ有シ即チ或
 ル規則ヲ以テ指示セラレタル事件ノミノ審理ヲ掌トルモノトス換言
 セハ普通裁判權ヲ有スル裁判所ハ廣ク如何ナル事件ト雖モ之ヲ受理
 スル權利ヲ有スルモノニシテ其權限ヲ論スルニ寧ロ其權限ニ制限ナ

初審裁判
所及覆審
裁判所

シトノ推測ヲ以テスヘシト雖モ特別裁判權ヲ有スル裁判所ハ其權力
 普通裁判權ヲ有スル裁判所ノ如ク廣大ナラスシテ寧ロ如何ナル事件
 ト雖モ受理スヘカラサルノ推測ヲ下タスヘキモノナリトス
 例ヘハ民事裁判所ハ苟モ民事ニ關スル以上ハ何等ノ事件タリ凡之カ
 裁判ヲ下スト雖モ海陸軍裁判所ハ只軍人ニ關スル刑事ノ裁判ヲ下タ
 スノ權アルノミ又始審ニ於テ百圓以上ハ何等ノ事件ト雖モ之カ判決
 ヲ下スモノハ是レ普通裁判權ヲ有スルモノニシテ治安裁判所ニ於テ
 勸解ニアラスシテ百圓未滿ノ事件ニ對シ之カ裁判ヲ下タスハ是レ特
 別裁判權ヲ有スルニ由ルナリ
 次ニ初審裁判所ト覆審裁判所トノ別ヲ論述スヘシ
 初審裁判所及ヒ覆審裁判所
 初審裁判所ハ始テ訴出スル所ノ裁判所ナリ覆審裁判所トハ該裁判所以

下ノ裁判所ノ判決ニ對シ其誤謬ヲ匡正スルノ裁判所ニシテ其覆審裁判所トハ即チ始審裁判所ノ治安裁判所ノ判決ニ於ケル又控訴裁判所ノ始審裁判所ノ判決ニ於ケル及ヒ控訴裁判ヲ審理スル大審院ノ如キ是ナリ此他英國ニ於テハ種々ノ區別アレトモ無用ナルヲ以テ茲ニ之ヲ説述セズ

又判事ハ如何ニシテ奉職スルカ各裁判所ノ權限區域ハ如何ナルカ諸君ノ熟知セル所ナルヲ以テ之ヲ略ス

第四回

既ニ説ク所ヲ以テ裁判所ノ何物タルト及ヒ茲ニ於テ事務ヲ取扱フ人ハ誰ナルカタテ説キ終リタリ

今何故ニ訴訟法中ニ於テ訴訟人ヲ召喚スルノ規則ヲ講述スルコトヲ要スルカト云フニ凡ソ訴訟ナルモノハ彼ノ行政ノ如ク政府力之ヲ始

ムルモノニアラス政府ノ職務トシテ刑法ヲ執行スル爲メ治罪法ヲ設
 ケテ罪犯ヲ擔當セシムル場合アレトモ余カ講義ノ民事訴訟法ニ屬セ
 サルナリ
 又夫ノ法律家ニシテ裁判官ニアラサルモノ、中ニ二種ノ別アリ一ハ權
 利ヲ作爲スルコトニ從事スル者一ハ權利ノ實行ニ從事スル者アルコ
 トハ既ニ説キタル所ナリ而シテ訴訟法ノ重モニ補助ヲ與フル所ノモ
 ノハ權利ヲ實行スルコトヲ司トル代言人ニアリ
 日本人ノ考フル所ニ依レハ代言人ノ職務ヲ以テ公事師ト唱ヘ唯裁判
 所ニ出テ訴訟ヲ爲シ辯論ヲ試ムルヲ以テ其職務ノ如ク思惟スト雖モ
 是レ談謬ナリ蓋シ代言人ハ訴訟ヲ爲シ裁判所ニ出入スルノミヲ以テ
 其本職トセス可成訴訟ヲ滅シ裁判所口出入セスシテ落着スルヲ以テ
 本務トセサルヘカラス

凡ソ代言人カ依頼ヲ受ケテ第一ニ勉ムヘキハ依頼事件ヲ熟察シ之ヲ取調ヘタル上ニテ果シテ訴訟ニ依ルニアラサレハ其事件ノ落着セサルヤ否ヲ觀察シ訴訟ニ依ラスシテ落着スル道アラハ成ルヘク法廷外落着ノ道ニヨルヲ良キトス故ニ夫ノ依頼人ノ來ルヤ否直チニ訴訟ニ依リテ是非ヲ決セントスルハ貴ムヘキ所ニアラサルナリ
代言人ハ獨リ訴訟ヲ提起シ又ハ爭論ヲ爲スノ職ニアラサルモ我國現今ノ位地アリ學識アル所ノ某代言人ニシテ余ト意見ヲ異ニスルモノアリ或ハ株式取引所ニ出入シ其頭取撰擧ノコトニ預ルカ又ハ某役員事務取扱ニ過失アリ株主之ヲ攻撃スルニ方リ其爭論ヲ惹起ス方ニ關係スルモノナキニアラス若シ其代言人カ株式會所ニテモ何處ニテモ此ノ如キ頭取撰擧等ニ緻密ノ關係ヲ有シ眞ニ株主タルノ資格ヲ以テ茲ニ出席スルハ當然ニシテ其職務ノ何タルヲ問ハサルナリ然レトモ

株式取引所ニ利益ヲ有スルカ故ニ出入スルニアラス争訟ヲ惹起ス爲メ
 法庭外ノ代言ヲ爲シ又其訴訟ヲ惹起シ報酬ヲ得ルカ爲メ又ハ之ヲ
 得サルモ據テ以テ虚名ヲ博セントスルハ識者ノ必ス疑フ所ナラン甚
 シキニ至リテハ元ヨリ金儲ケノ爲メニ株式所ノ争論ニ參席セシト云
 フモノアルニ至レリ然レトモ代言人ノ業タル學術ト實驗トヲ要スル
 モノニシテ嘗テ學知シタル所及ヒ得タル經驗トヲ以テ其帶フル所ノ
 信用ニ依リテ其職業ヲ取ルハ正道ナレトモ之ニ據ラス以テ此ノ如キ
 奇道ニ出テ卑劣手段ヲ爲シ虚名ヲ博セントスルカ如キハ相互法學者
 ノ從事スヘキモノニアラサルナリ
 元ヨリ今日ノ日本人ノ思想タル甚ダ卑劣ニシテ德義ニ拘ハラズ唯金
 儲ケスレハ人カ信用スルナラントノコトヲ以テ其職業ハ如何ナルニ
 モ構ハサルカ如クナレトモ其名譽ハ即チ虚言ノミ信用ハ却テ不信用

ナラントハ識者ノ信スル所ナリ
代言ノ業元ヨリ節操ヲ重シテ士タルヘキノ道ヲ盡スモノナリ三百代
言ヲ以テ名クルノ人ナレハ恕スヘキモ凡ソ學位アリ信用ヲ得ルコト
ノ容易ナルノ人ニシテ唯虛名ヲ博センカ爲メナスハ貴ムヘキコトコ
アラズ實ニ卑屈極マルモノト云フヘシ蓋シ反對ノ人ヨリ見レハ余ノ
言フ所ヲ以テ偏頗ト云ヒ卑屈ト云ハルヘシト雖モ識者自ラ別別スル
所アルヘシ
前述セル所ハ余ノ故ラニ演說シタルニハアテス序ナカラ述ヘタルノ
凡ソ依頼人來ルヤ事件ノ可否鑑定ヲ乞フアリ出訴ノ擔當ヲ依頼スル
モノモアリ又既ニ云フ通り代言人ノ職ハ濫リニ出訴スルノミニ限ラ
ス况ンヤ法庭ニ出テ喋々スルハ識者ノ好ム所ニアラス故ニ是ヨリ依

頼人ノ事件ヲ依頼セントスル者來ルトキハ如何ニ取調フヘキヤヲ説
 クヘシ
 凡ソ一事件ヲハ握リシ上ニテ第一ニ穿鑿スヘキモノハ依頼人カ其事
 件ニ關シ請求スル所ノ權利ヲ主張スル事實アリヤ否ヤ法律ハ之ヲ許
 スヤ否ニアリ而シテ其事實アリヤ否ハ其權利ノ基トスルモノニシテ
 英國ノ法律ヲ以テ論スルニ毆打創傷ノ如キモノヲ以テ損害ヲ要償ス
 ルハ民法ニテ要償シ得ルト雖モ若シ其事實ニシテ法律ニ該當スル所
 ナ欠ケハ之ヲ省セサルモ知ルヘカラス又契約ノ權利ニテモ之ヲ主張
 スル所ノ事實ナキヤ知ルヘカラス又法定ノ式ニ適ハサルヤモ知ルヘ
 カラス又財産權ニ關スル者ニテモ其賣買約定讓渡ノ手續ヲ經サルヤ
 モ知ルヘカラス此邊ハ能ク々々取調ヘサルヘカラス
 先ツ以上ノ事柄ハ事實法律ノ二者存スルモ更ニ考フヘキハ其事件タ

ル依頼人カ既ニ其權利ヲ失ヒシ事實アラサルヤ否又之ヲ失フニ就テハ其人ノ行爲ニ依ルカ法定ノ規則ニ依ルカ其權利ヲハ放棄スル如キ行爲ヲナセシコトナキカ又ハ法律ノ定メタル法式ヲ欠キタルコトナキカ或ハ出訴期限ヲ經過セシコトナキカヲ考ヘサルヘカラス
其他出訴期限ノ法律ハ大切ニシテ其何物タルコト又其期限ノコトニ至リテハ種々ノ區別アリテ大概子左ノ如シ
英國ノ法律ニヨレハ出訴期限ハ正式ニ履ミ約定シタル負債ノ訴訟又ハ田地ノ取戻地代ノ請求質入財産ノ取戻等ハ二十年トシ又他人ノ土地ヲ侵シ他人ノ物品ヲ抑留シ又ハ間接ニ權利ヲ犯シタル私訴犯又拂殘リノ家賃等ノ請求ハ六年内又身體動産ニ對シテ犯シタル直接損害ノ訴ハ四年内讒謗ハ二年内トス
出訴期限ハ大略斯ノ如シト雖モ若シ被告人ニシテ婚姻シタル婦人ナ

ルカ又ハ幼者、癡癪人等ノ如キ精神慥カナラサル者ナルトハ出訴期限ハ經過セサルモノトス若シ又被告人外國ニ在ル時ハ其歸國スルマテ出訴期限ヲ中止スルモノトス然レモ連帶ノ場合ニ一人外國ニアリ一人内國ニ在ルモハ其訴權ハ内國ニ在ル人ニ對シテハ中止スルコトナシ凡ソ資格足ラサルカ爲メ出訴期限ヲ中止スルモハ訴權ハ資格ヲ備フルニ至リシヨリ始マル者ナリ若シ詐欺或ハ不正ノ手續ヲ以テ出訴期限ヲ隱シタルモ出訴期限ハ之ヲ發見シタル日ヨリ起算スルモノトス凡ソ幹法ハ訴訟ノ基礎トナルヘキモノヲ定メタルモノニシテ枝法トハ幹法ニ於テ定メタル權利ヲ主張スルニ當リテ用ヰル所ノ手續ナリ而シテ若シ一ノ幹法アリテ政府之ヲ取消シ新ニ幹法ヲ設ケタルモハ前ニ溯ルコトナシト雖モ枝法ニ至リテハ必スシモ前ニ溯ラスト云フコト得ス即チ出訴期限ノ如キハ枝法ナルヲ以テ或ハ前ニ溯リ幹法ヲ助

タルコアルヘシ故ニ凡ソ一ノ權利アリ出訴期限ヲ經過スルト雖モ必
ズ權利ヲ消滅シタルニアラス唯出訴ノ權ヲ奪ハレタルニ止マルノミ
故ニ法庭ノ助力ヲ假リテ請求スルコト能ハサレヒ他ニ道アリテ之ヲ回
復スルヲ得ハ之ヲ請求シテ不可ナキナリ別言スレハ原告トナリテ請
求スルヲ得サレヒ被告トナリテ出訴セラレタルハ已ニ妨ケラレタ
ルノ權刑ヲ以テ之ニ抗辯スルヲ得ルナリ
譬ヘハ代理人ノ訴訟入費ノ期限ハ六年ナリ然レヒ右六年經過ノ後若
シ其訴訟ニ關スル書類ヲ尙ホ手許ニ存シナキタルトキハ其書類ヲ抑
留シ又田地ナレハ其取上入額ヨリ取戻ヲ得ルカ如シ而シテ英國ノ手
續ニテハ若シ出訴期限ノ經過ヲ恐ル、キハ裁判所ニ請フテ召喚狀ヲ
發スルコトス此召喚狀ハ一年間有効ナルモノナレハ一年內ニ之ヲ被
告人ニ渡サズ時ハ可ナリ故ニ相當ノ理由アルキハ一年毎ニ裁判所ニ請

フテ召喚狀ヲ改ムルヲ得ヘシ
 次ニ訴訟ノ何物タルヤヲ考ヘ又何人ヲ訴フ可キヤヲ定メサル可カラ
 ス何トナレハ若シ其人ヲ誤リ訴フルキハ徒ニ入費ノ損失ヲナスヘシ
 故ニ十八ヲ訴フヘキ時ハ十八ヲ訴フヘシ一人ニテモ訴フ可カラサル
 モフヲ訴フルハ不可ナリトス元ヨリ一人一個ノ事ナレハ別ニ難事ニ
 アラサレモ組合商社會社ノ如キニ至リテハ大ニ注意セサルヘカラス
 組合商社ハ法律上人ト認メサルカ故ニ其社全員ヲ舉テ訴ヘサルヘカ
 ラス之ニ反シテ會社ノ如キハ政府ノ許可ヲ得テ設立シタルモノハ法
 律上無形人ノ資格ヲ有スルモノナレハ只社名ヲ以テ訴フルヲ得ヘシ
 又會社ノ名目アリト雖モ其實然ラサルモノアリ故ニ訴訟ヲ起サント
 セハ先ツ相手トスヘキノ人ヲ定メサルヘカラス若シ又既婚婦白痴者
 瘋癲人等ハ夫或ハ友人又ハ後見人ニ依リテ訴ヘサル可カラス

ノ職務ヲ奉スルヲ禁セラレタル者ナリ故ニ法律ニ背キタル所爲ヲナシテ蒸氣船ヲ得タル者ナレハ被告ノ之ヲ占有スルハ不法ナリト是則チ原告ノ再答辨ハ自分ノ權利ノ強キヲ云フニアラスシテ唯被告ノ權利ノ弱キヲ證スルノミナリ故ニ裁判官ハ被告ノ勝訴ニ歸セシメタリ本訴判決第三ノ項ニ基キタル原則アリ曰ク若シ人自乙ノ私犯上ノ所爲ニ依リ證據ヲ引去リタルニ當リ其證據ニシテ果シテ其者ノ權利義務ノ性質ヲ明了ナラシム可キ者ナルトキハ過失者ニ不利益ナル推測ヲ下ス可シト例ヘハ契約ヲ爲ス者アリテ其契約ノ爲メニ義務ヲ負フヘキ者即義務者契約書類ヲ引去リテ出サ、ルトキハ其契約ハ正當ニ證券印紙アリタルモノト推測ス又代價ヲ定メスシテ他人ニ物品ヲ賣却スル時ニ賣主カ其價ヲ算定スルニ要用ナル證據ヲ出サ、ルトキハ同類ノ物品中ニテ最モ低價ナル品位ナリシト推測ス之ニ反シテ買主

カ品物ノ價ヲ鑑定スル手段トナル證據ヲ湮滅シタルトキハ最モ高價
 ノ品位ナリシト推定スルナリ
 [第拾貳] 連帶約束人ノ承認ニ關スル件

ホビットコム對ウサットン

Whitcomb, V. Whiting.
 (1 Sm. L. C. 482)

連帶約束
 人ノ承認
 ニ關スル
 件

本訴件ノ問題トスル處ハ約束手形ノ約束者四人アリテ其一ハカ約束
 ナ承認シタルトキハ其効果ハ他ノ約束人ニ及フ可キヤ否ト云フニ在
 リ
 此場合ニ於テ原告ハ一ノ連帶及各別ノ約束手形ヲ提供セリ其手形ヲ
 作リシモノハ被告外三人ナリ而シテ此手形ノ出訴期限ハ六年ニシテ
 出訴セル時ハ該手形ノ仕拂日ヨリ計フレハ既ニ六年ヲ經過シタリシ
 然レトモ嘗テ被告外ノ約束人三人中ノ一人カ該手形ニ對スル利子及
 ヒ元金ノ一部分ヲ拂ヒシコトアルニ由リ其所爲ハ則チ新ニ約束ヲ承

認シタル者ニシテ其時ヨリ更ニ起算スルトキハ未タ六年ニ及ハサル
コトヲ證明シ以テ該手形ノ約束人ノ一人ナル被告ニ對シテ訴訟ヲ起
シタリ
然ルニ裁判官ハ約束人ノ一人ガ出訴期限内ニ利子又ハ元金ノ一部分
ヲ拂ヒタル爲メニ約束手形ノ出訴期限ノ經過ヲ中斷スルモノナリト
認メ該手形ハ尙ホ効力アルモノトナシ陪審官モ亦裁判官ノ意見ニ從
ヒ終ニ原告ノ勝訴トナシタリ
其後被告ヨリ再審ノ訴ヲ起シ其理由ヲ述テ曰原告ハ被告一人ヲ相手
取リタルニ因リ本訴ニ於テハ此約束手形ニハ恰モ被告一人ノ署名
シタルモノ、如クニ見做セリ故ニ若シ此訴件ニ於テ約束手形ヲ作リ
シ四人ヲ連帶ニテ訴ヘタラハ或ハ結果ノ異ナルコトアルモ知ル可ラ
ザレモ本件ノ場合ニ於テハ被告一人ヲ相手取リタル者ナレハ他ノ約

東人ノ所爲ハ被告ニ反對シテハ毫モ効力ヲ生セスサレハ被告外ノ約束人ノ承認ハ被告ニ對シテ證據トナス可ラス嘗テヘンミンクス對ロピンソソノ訴件ニ於テ約束手形ノ裏書讓受人カ約束人ニ對シテ起訴シタル場合ニ於テ原告ハ中間ノ裏書人ノ承認ヲ證明シテ曰ク約束手形ノ裏書ハ裏書人ノ手書ナリト然レトモ裁判官ノ說ニ依レハ此ヲ以テ裏書人ノ承認トナシ約束人ニ反對スル證據トナスノ効力ヲ有セス若シ如此種類ノ證據ヲ許ストキハ詐僞共謀ヲ行ハシムルナラント此ノ如キ先例アルヲ以テ本訴ノ場合ニ於テモ約束人ノ一人ガ利子及ヒ元金ノ一部ヲ拂ヒタリトモ出訴期限ノ經過ヲ中斷スルノ効力アル可ラズ云々

控訴裁判官曰ク此問題ハ唯出訴期限ノ中斷シタルヤ否ヲ決スルニアリ若シ果シテ詐僞ノ事實アラシムニハ別ニ之ヲ證明セザル可ラズ而シ

テ本件ニ於テ約束人ノ一人ガ利子及ヒ元金ノ一部分ヲ拂ヒタルハ連
帶義務者全体ノ爲ニ拂ヒタル者ニシテ其一人ハ他ノ連帶義務者ノ代
理人ノ性質アリ故ニ一人ノ承認ハ他ノ連帶者ノ承認トナルヲ以テ
若シ其一人ガ負債ノ存在スルコトヲ承認シタルトキハ則チ法律ハ
他ノ連帶者モ亦其負債ヲ拂フベキヲ約束シタルモノト推測スヘシ
ト
他ノ判事曰ク被告ハ一部分ノ仕拂ノ爲メ利益ヲ得タルナリ然ラハ則
チ此仕拂ノ爲メニ生スル責任モ亦負ハサル可ラスト
故ニ始審ノ裁判ハ正當ニシテ再審ヲ許ス可ラスト申渡シタリ
本訴訟事件ノ判決ニ基キタル判決例數件ヲ左ニ擧グベシ
シヤクソン對フヤバンシ (2H. B. 340) 此訴件ニ於テ提出セル約束
手形ノ連帶義務者ノ一人ガ身代限ノ處分ヲ受ケタルニ當リ其手形ノ

受取人即權利者カ身代限監財委員ニ對シテ手形ヲ證明シ之ニ相當
 スル配當金ヲ受取リタリ其後六年ヲ經過スル迄ハ(手形ノ仕拂目ヨ
 リ數フレハ六年ヲ超ユルトモ)他ノ連帶義務者二人ニ對シテハ起訴
 ノ權アリ何トナレハ身代限ノ配當金ヲ與フルハ承認ニ等シケレバ
 ナリ

グラントラム對ワルトン (I.B. & A. 463) 此訴件ニ於テ爲換手形ヲ二人
 連帶ノ名義ヲ以テ振出シタリ而シテ其一人カ身代限トナリタルハ該
 手形ノ所持人ハ其受取ルベキ物品代價抵當トシテ該手形ヲ所持スル
 コトヲ證明シ依テ物品代價ニ對スル配當金ヲ受取タリ茲ニ配當金ヲ
 受取リシハ全ク物品代價トシテ請取リタルモノナレハ該手形ニ關係
 アルニアラス故ニ配當金ヲ受取リタルコトハ他ノ振出人ニ對シテ出
 訴期限ノ經過ヲ中斷セスト判決セリ

支配人ヨリ其許否ヲ強ユ可キモノニアラサル可シ故ニ株主カ支配人ノ所爲ヲ認許シ得ルノ餘地アルニモ拘ハラズ之レヲ認許セサリシヨリシテ法律上恰モ株主カ認許シタルモノト見做ス可キ場合ヲ除クノ外ハ商社又ハ株主ニ利得ヲ與ヘタリトノ理由ヲ以テ其賠償ノ責任ヲ負ハシムルヲ得サル可キナリ但若シ其利得ニシテ一旦商社ニ入りタル後ハ之レヲ分離ス可カラサルモノナレハ其分離ス可カラサル利得ハ之レヲ生ミ出シタル支配人へ賠償ス可シト一ノ理由アルノミ他ニ適當ノ理アルヲ見サルナリ要スルニ支配人コシテ金圓ヲ借入ル、ニアラサレハ商社ノ事業ヲ繼續シ能ハサルモノト認メタルトキハ其事由ヲ告ケテ親シク株主ト協議セサル可カラス唯商社ノ爲メ利益ヲ得ルノ目的ニテ誠意ニ爲スコトナラハ何事タリトモ之レヲ爲シテ株主等ニ無限ノ責任ヲ負ハシメントスルカ如キハ決シテ法律ノ當ヲ得

損失ノ起
生セサル
前ニ於テ
モ賠償ノ
權アリ

タルモノニ非サルナリ
賠償ヲ得ルノ權利ハ獨リ現實損害ヲ被リタルトキニ於テ始メテ執行
シ得ヘキモノニアラス猶既ニ損失ヲ受ク可キノ地位ニ立チタルモノ
ハ未タ實際ニ之レヲ被ラサルモ豫メ賠償ヲ求ムルコトヲ得ヘキナリ
例ハ英國法律ニ依レハ保證人カ本人ニ代リ辨償ヲ爲スノ義務ハ負
債主タル本人義務ヲ怠リタルトキニ於テ既ニ發生セルカ故ニ若シ債
主ヨリ保證人カ辨償ノ請求ヲ受ケタルトキハ保證人ハ未タ實際ニ辨
償セサルモ一方ニ向ヒ負債主本人ニ對シテ賠償ノ求メヲ爲スコトヲ
得ヘキナリ又之レヲ組合又ハ商社ノ場合ニ付テ例センニ組合員又ハ
商社ノ支配人ハ組合又ハ商社ノ爲メニ自己ノ名義ヲ用ヒテ金圓ヲ借
入レタルトキハ未タ實際ニ其金圓ヲ債主ニ對シ返濟セサル前ト雖モ
豫メ組合又ハ商社ニ對シ賠償ヲ求メ得ヘキナリ又他人ノ爲メニ株券

各自ノ割
前高

チ所有スル名義人募集ニ逢ヘハ未タ募集金ヲ拂ハサル前ト雖モ猶ホ豫メ眞ノ所有者ニ對シ賠償ヲ求ムルコトヲ得ヘキナリ又數人割前チ出ス可キ場合ニ於テ内一人己レノ割前チ出ス能ハサルモノアリトキハ他ノ者ニ於テ之レヲ償ハサル可カラス例ヘハ甲乙丙丁四人ノ負債主ノ内ニテ甲一人借金ノ全額ヲ皆濟シタルトキハ甲ハ乙丙丁三人ニ向ヒ各其割前チ要求シ若シ右三人ノ内乙カ己レノ割前チ出ス能ハサルシトキハ甲ハ丙丁ニ對シ全額ノ三分ノ一ツヲ出サントチ求メ得ヘキナリ是ト同一ノ理ニ基キ組合ノ場合ニ於テ一例チ舉ケンニ四人ヨリ成立スル處ノ組合ノ一人ナル甲組合ノ負債ヲ辨償スルニ付キ己レノ割前分ヲ出ス爲メ或ル物件ヲ差出シ置キタルニ他ノ組合員ノ中其割前チ出スコトヲ得サルモノアリシ爲メ其物件ヨリ甲ノ割前分チ引去リタル外ニ仍ホ他ノ組合員ノ割前高ニ對シ組合ヘ受

商社解散
ノ場合

違犯者間
ノ賠償

There is no contribution
amongst wrong-doers.

取ラル可キモノト判定セラレタルコトアリタリ商社ノ場合ニ於テモ
 之レト同シク若シ株主ノ責任無限ナレハ商社解散ノ時ニ於テハ各株
 主ハ己レノ割前ヲ出シタル外ニ仍ホ商社ノ負債ヲ辨償シ終ルマテハ
 其責任ヲ免ル、能ハス
 法律ノ違犯者間ニハ互ニ賠償ヲ受クルノ權ナシトノ法律ノ格言ニ付
 テ一言センカ組合ノ場合ニ於テハ此格言ヲ適用スルニ付稍ヤ注意ヲ
 加ヘサル可カラス抑組合ノ目的其レ自身ニ於テ違法ナルトキ例ヘハ
 禁制物賣買ヲ營業ト爲ス組合ノ如キモノナレハ其組合ノ組織上全体ニ
 於テ法律ノ許サ、ル所ヲ以テ營業ノ目的トナシ居ルカ故ニ設ヒ組合
 員中其營業上ニ何程ノ金錢ヲ支出シ居ルモノ又ハ何程ノ損失ヲ營業
 上蒙リタルモノアルモ其割前ヲ他ノ組合員ヨリ要求スルノ權利ナキ
 ヤ勿論ナレトモ若シ夫レ組合營業ノ目的タル敢テ法律ニ背カス適法

組合員ノ
場合ニ格
言ノ適用

ノモノナリシモ唯營業中法律ニ觸ル、如キ所爲アリ其所爲タル組合
ニ責任ヲ歸セシムヘキモノニシテ爲メニ之レニ關セサル組合員ノ一
人カ損失ヲ被リタルトキノ如キハ其損失ハ組合ヨリシテ賠償ヲ求メ
得ヘキハ當然ノコトナリトス故ニ組合員カ組合ヨリ賠償ヲ受クルノ
權ハ賠償ノ起因ト爲ル可キ所爲カ法律違犯ノモノナリト雖モ組合營
業ノ目的違法ナルカ又ハ賠償ヲ求ムル所ノ組合員自身ノ所爲ニ由リ
起リタル損害ニ非サル以上ハ唯其所爲ノ違犯ナルコトノミヲ以テ賠
償權ヲ沮絶スルヲ得サルモノトス蓋シ組合營業ノ目的違法ナルトキ
又ハ損害ノ起因自己ノ所爲ニ基スルトキハ是レ則チ自ラ爲セル損害
ニシテ他ニ賠償ヲ求ムルノ權ナキハ勿論ノコトナリトス例ヘハ未ダ
英國ニ於テ海上保險ノ事業ヲ組合ニ於テ營ムコトヲ許サ、リシ時ノ
例ニ付テ一言スレハ法律ニ背キ組合ニテ海上保險ノ事業ヲ營ミ組合

員ノ一人カ營業上保險金ヲ拂ヒ出シタルコトアルモ其保險金ハ組合ニ對シ賠償ヲ求ムルヲ得サルナリ然レトモ組合營業ノ目的其レ自身ハ違法ナラス又賠償ヲ求ムル所ノ組合員違犯ノ所爲ナルコトヲ知ラザリシトキハ設ヒ損害ノ起因違犯ノ所爲ニ基ヒスルモ元ト誠意ニ組合ノ爲メニ事ヲ爲シ因テ損失ヲ被リタルコトナレハ設ヒ其事柄法律ニ觸ル、モ猶賠償ヲ組合ニ對シ求ムルノ權アル可キナリ

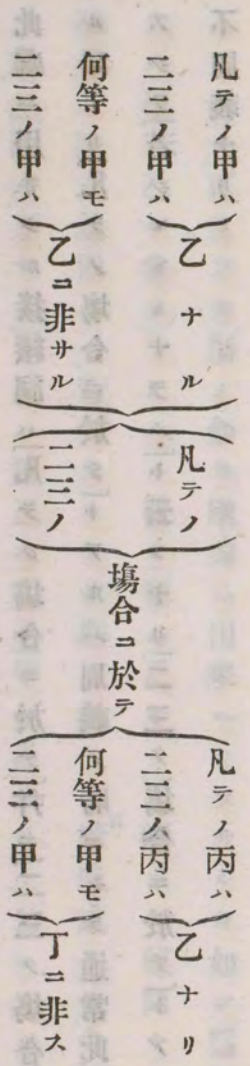
例ヘハ藥種營業ヲ爲ス組合員ノ一人カ法律ニ背キ激藥ヲ賣渡タル爲メ罰金ヲ科セラレ其罰金ヲ其情ヲ知ラサル組合ノ他ノ一人カ拂ヒタルトキノ如キハ後組合ニ對シ其賠償ヲ求ムルヲ得ヘキナリ又商社カ資本金高法律ニ規定シタル募集高ニ至ラサル中ニ營業ヲ始メタル場合ニ於テモ株主ハ尙其社ノ負債ニ對シ責任ヲ負フヘキモノナリト判決セラレタルコトアリ

第一項 顯限論式

有限論式ハ論式中ニ有限命題アルカ若クハ論式ノ三命題共ニ有限命題ナルモノヲ云フナリ先ツ通常顯限論式ト稱スルモノヨリ講述セシ此所ニ顯限論式ト云フハ論式ノ第一命題ハ顯限命題ニシテ後ノ二ツハ無限命題ナルモノナリ勿論近來ノ論理學者中ニハ之レヲ不可ナリトシ三命題共ニ顯限命題ナルモノヲ顯限論式ト稱シ右ノ如キ類ヲ顯限無限論式ト稱スルモノアリ理論ニ於テハ或ハ然ラン左レト在來ノ慣習ニテ第一命題ノ顯限命題ナルヲ顯限論式ト云ヒ又實際ヨリ考察スルモ斯ノ如キ論式ヲ要シ三命題共ニ顯限ナル如キハ絶テ其用ヲ見サル所ナリ故ニ余モ亦慣例ニ從フ

顯限論式ニハ議論ノ構成ナルト破棄ナルトノ二種アリ此二種ヲ説明セシニハ先ツ顯限命題ノ性質ヨリ説明セサル可ラス顯限命題ハ上下

ノ兩句ヨリ成立ス上句ハ論據トナリ下句ハ論旨ト爲ルモノナリ換言
 スレハ上句ハ從ニシテ下句ハ主ナリ而シテ此兩句ヲ連結スル接續詞
 必スアルナリ凡テ顯限命題ハ其下句ニ依テ其質ヲ變ス故ニ下句ニシ
 テ正定ナレハ命題モ亦正定ナリ下句ニシテ否定ナレハ命題モ亦否定
 タリ即チ顯限命題ニ於テハ下句ノ質ノ如何ナルヲ問ハサルモノトス
 又顯限命題ノ量ハ其接續詞ノ量ニ依ルコト、スレハ接續詞ノ量ニ注
 意セサル可カラス今此定義ニ依レハ顯限命題ハ左ノ式ヲ以テ之レヲ
 示スヲ得ベシ



此處ニ用ヰタル接續詞ハ凡テノ場合ニ於テ并ニ二三ノ場合ニ於テナル語ナリ凡テノ場合ニ於テトアルハ周義ノ時ニシテ通常此語ヲ用ヰスシテ若シハ、ナラハト云フナリ二三ノ場合ニ於テトアルトキハ不周義ナリ

若シ副案ニ於テ上句ヲ受ケテ例ヘハ凡テノ甲ハ乙ナリト云フトキハ則チ提綱ヲ承諾シタルモノナリ是ヲ以テ斷案ニ於テモ亦提綱ヲ承認シタルモノヲ得ヘシ今簡單ノ例ヲ掲ケンニ

第一 若シ甲ハ乙ナラハ丙ハ丁ナリ

第二 甲ハ乙ナリ

第三 丙ハ丁ナリ

凡テ顯限命題ノ上句ハ無限命題ノ主位ニ相當シ其下句ハ賓位ニ相當ス故ニ此例ニ於ケル副案ハ實ハ此場合ニ於テ甲ハ乙ナリトノ命題ト

ナルト知ラル可シ左レハ「甲ハ乙ナリ」トハ實ハ媒語ナリ故ニ此場合ハ
 第一法論式ノ法則ニ從ヘシモノナリ又若シ第一ニ於テ「丙ハ丁ニ非ス
 トアラハ第三ニ至リテモ亦「丙ハ丁ニ非ス」トナルヘシ是レ提綱ヲ承認
 シタル所以ナリ又若シ甲ハ乙ニ非サレハ「丙ハ丁ニ非ス」トアルモ前同
 様ニ取扱フ可キナリ左ノ如シ

第一 若シ甲ハ乙ニ非レハ丙ハ丁ニ非ス

第二 甲ハ乙ニ非ス

第三 丙ハ丁ニ非ス

トセサル可カラス斯ノ如キ議論ハ出來ヘカラサルカ如シ然レトモ第
 二ノ「甲ハ乙ニ非ス」トアルハ前ノ「甲ハ乙ナリ」ト同シク媒語ナルヲ以テ
 決シテ論式規則ニハ背カサルナリ斯ノ如キヲ構成式トス今若シ第二
 ニ於テ「丙ハ丁ナリ」トセハ第三ニ於テ「甲ハ乙ナリ」ト云ハサルヲ得ス是

レ提綱ヲ破棄シタルモノナリ故ニ第二ニ於テ第一ノ下句ヲ破棄セハ
 斷案ニ於テ必ス上句ヲ破棄スルコト、知ラル可シ今實例ヲ示サンニ
 第一ノ天氣晴レサレハ日ハ暄カナラス
 第二日ハ暄カナリ
 第三天氣晴レタリ
 ト云フコトヲ得ルカ曰ク全ク云フコトヲ得ルニ相違ナシ何トナレハ
 之レヲ尋常論式ニ改ムルニ
 第一天氣晴レサレハ暄カナラス
 第二今日ハ暄カナリ
 第三今日ハ天氣好シ
 ト先ツ置キテ第一ヲ轉換スルトキハ暄カナルトキハ天氣晴レサルハ
 非ストナル可シ之レヲ更ニ反定セハ暄カナルトキハ天氣好シトナル

ニ從ヒ各之ニ比例シタル特權ヲ附與シ以テ相結合シタリ凡ソ羅馬史
 ナル語ヲ熟知スルナラン夫ノ拉丁律トハ羅馬府民タルノ權利ヲ各市
 府ノ人民ニ附與シタルヲ表明シタルモノナリ而シテ其權利ハ各都
 府人民悉ク同一ナルニアラスシテ各其度ヲ異ニセリ或ハ獨リ交通貿
 易ノ權ヲ有スルアリ或ハ兼テ又婚通權ヲ有スルアリ然レモ内國爭亂
 (羅馬建都六百三十三年)ノ後シウリア法令同上六百六十四年及ヒプロ
 ーシア法令同上六百六十五年)ハポト河以北ニ住スル伊太利人ニ府民
 タルノ全權ヲ授與シ而シテ伊太利人ヲ三十五種族ノ中ニ配分シタリ又
 伊太利律トハ都府獨立權ノ幾分ト此獨立權ノ與ヘラレタル地方ヨリ
 出スヘキ租稅トヲ免除スルヲ表明シタル者ナリ元來ポト河以南ノ
 伊太利及ヒラテナイタスト稱スルモノ即チ拉丁人タルノ身分ヲ有ス

奉行ノ時
代羅馬法
ノ變遷

ル諸州ニ於ケル二三ノ特別ナル府民并ニ「ラテナイタス」チ有スルモノ
 等ヲ拉丁殖民人ト總稱シタリ是等ノ人民ハ交通權ヲ享有セシト雖氏
 婚通權ヲ享有セサリシナリ故チ以テ其子ニ對シテ充分ノ權力チ有セ
 サルノミナラス又官吏チ投票シ若クハ之ニ任スルノ權チカリシナリ
 而シテ伊太利律ナルモノハ或ル特典チ有スル都府ニ限り附與セラレ
 タルモノニシテ其他ノ諸州ハ一般ニ交通及ヒ婚通ノ二權チ享有セサ
 リシナリ故ニ此等ノ州ハプロユンサン副議政官又ハプレートル奉行ノ配下ニ屬シ租稅ヲ羅馬
 ノ國庫ニ納レ而シテ羅馬律中羅馬人方許與セタル部分ニ由テ支配セ
 ラルモノナレハ其征服者ハ則チ羅馬人ノ便宜ト信スル所ニ從ヒ務
 メテ羅馬ノ政治思想ニ符合セシメンコチ企圖セラレタリ

第十一節 奉行ノ時代羅馬法ノ變遷

然レ羅馬人ノ外邦人ト相觸レ相接スルニ及ヒテ羅馬法ニ最モ著シ

キ結果ヲ發生シ其結果タル所屬國人民ノ位地ヲ規定スルカ爲メ新ニ
發生シ來レル法律ノ比ニアラサリシナリ蓋シ此外國交通ハ羅馬人民
ノ法律思想ニ於テ一大變革ヲ生シタリト言ハシモ敢テ不可ナキナリ
又良シヤ外國交通ハ此變革ヲ成就シタリト言フヲ得サルトモ之ヲ助
成スルニ於テ與リテ力アリト言ハサルヲ得ス實ニ外邦ト相接スルニ
當テ羅馬人民ハ彼我法律ノ組織ヲ比較セサルヘガラサルニ至リシハ
又止ムヲ得サルノ勢ナリ羅馬法學士ノ語ニ據レハ是ニ於テ始メテ國
際法即チ一般ニ他ノ國民ヨリ得ラレタル法律ハ羅馬古代ノ法律ナル
固有法ト共ニ併存スルニ至レリト
羅馬建國五百七年ニ外國奉行ナル者ヲ置キ以テ羅馬府民外ノ人民間
ニ起リタル詞訟ヲ判決セシメタリ是羅馬府民カ從來因襲シ來リタル
固有ノ法律ハ其區域甚タ狹隘ナルカ故ニ之ヲ以テ外邦人ヲ束縛箝制

スルヲ能ハサリシヲ以テナリ然ルニ羅馬法ノ最モ至要ナルモノニ至
 リテハ府民ノ外何人タリト雖モ其保護ヲ受クル能ハサリシモノ、如
 シ譬ヘハ「キリシアム」所有權ト稱スル一種ノ所有權ノ如キハ府民ノ外
 何人モ之レヲ有スル能ハサリシナリ然レモ一タヒ正理公道ノ外國人
 ナシテ所有主タラシメサル可ラサルヲ指肅スルニ至テ外國奉行ハ府
 民カ要求スル所ノ所有權ト相異ナルモノヲ認メサル可ラサルニ至レ
 リ而シテマシストレイト司法官ハ外國人ノ場合ニ於テ行ハサル可ラサル所ノモノヲ
 文明ノ暇々進ムニ從テ府民ノ場合ニ於ケルモ亦均シク之ヲ行フノ必
 要ヲ感シタルヲ以テ司法官ハ羅馬固有法ノ主義ト異ナル所ノ主義ト
 認定シ之ニ効果ヲ與ヘタリト雖モ此固有法ハ正義公道ヲ行フニ緊要
 ナルモノヲ其規定中ニ備フルキハ依然其効力ヲ有スルモノニシテ唯
 夫レ之ヲ備ヘサルキハ外國奉行ハ一層廣濶ナル法律ニ訴ヘ固有法ノ

欲典ニ對シテ之カ救濟ヲ衡平法ノ主義ニ需メタリ加之奉行ハ詞訟ヲ
 公正ニ裁判スル爲メ自ラ欠ク可クサル法律ト確信スルニ於テハ之ヲ
 裁判上ノ定規トシテ發布シタリ爾來日ヲ重ヌルニ隨テ奉行ハ就職中
 自ラ根據トシテ取ルヘキ法理ヲ一ノ論告トナシ就職ノ始ニ於テ之ヲ
 小冊子ニ編集シ公布スルノ習慣ヲ醸成スルニ至レリ斯ノ如ノ新任奉
 行ハ必ス其就職ノ際ニ於テ先ツ論告ナルモノヲ公布セシカ故ニ爾後
 逐次發布スルモノ積ンテ一堆ヲ成スニ至レリ之ヲ恒久論告ト稱シタ
 リ奉行ハ詞訟方式ノ變遷ニ據リテ廣大寬濶ナル法律規則ノ制定セラ
 ル、ニ隨ヒ大ニ其扶助ヲ得タリシコトハ吾人ガ民事訴訟法ヲ論スルノ
 時ニ於テ瞭然タルヘシ
 爾來日ヲ經ルニ隨テ右ノ法律ハ一般ニ採用スル所トナリ愈々其基礎
 ヲ固フシヤス、オノウリアム即チ外國奉行ノ法律ハ羅馬固有法ノ補

助トシテ畫然之ト并存スルニ至レリ
 判事、日奉行ハ詞訟ノ摸範ヲ判事ニ與ヘタリ元來羅馬ノ判事ハ數百年
 ノ間元老議官獨リ之ニ任シタリシカ羅馬建都六百三十二年セソプロ
 ニア法令ノ出ルニ及テ判事タルノ權利ヲ元老議官ヨリ取りテ之ヲナ
 イトノ爵位ヲ有スル者ニ附與シタリ是ニ於テ乎多クノ爭論ヲ經テ此
 權利ハ元老院議官トナイトノ爵位ヲ有スル人トノ二階級間ニ分與セ
 ラレタルノミナラス猶ホ劣等ナル人種ニモ之ヲ擴張セリ故ヲ以テ元
 老議官ノ此官職ヲ專有セシ時ニ當テ其數三百人ニ過キサリシモ漸次
 其數ヲ増シオリガスタス帝ノ時ニ至テハ其數四千人ノ多キニ至レリ
 年表ニ掲載スル判事ノ外ニ尙ホレキユペレトトルト稱スル一種ノ法
 官アリ此官ハ當初訴訟ノ對手雙方外國人タル時ニ之ヲ裁決センカ爲
 メニ設ケラレタル者ナリシカ其後府民ノ訴件ニ於テモ亦管轄權ヲ有

明法學士

第十三節 「シユリス、プルーデンツ」(明法學士)

スルニ至レリ蓋シ此法官ハ殊別ノ場合ニ於テ各階級ノ人民ヨリ採用
 セラレシモノニシテ二名或ハ三名以上別席シ派出ヲ要スル場合ニ於
 テモ亦此法官ヲ用非タリ右ノ外尙ホ百名ヨリ成ル所ノ「センダム」
 リト稱スル法官アリ各種族ヨリ採用セラレタルモノニシテ身分財産
 遺囑相續及ヒ無遺囑相續等ノ訴訟ヲ判決セリ
 抑モ羅馬法律ノ進歩ヲシテ極メテ迅速ナラシメシモノハ法律ノ組織
 及ヒ主義ヲ講究シ且其講究シ得タル組織及ヒ主義ヲ以テ其朋友子弟
 ナ利益スル爲メ之ヲ傳播セシ所ノ「シユリス、コンサルター」或ハ「シユリ
 ス、プルーデンツ」ト稱セシ學士ノ一體與リテ大ニ力アリ且此等ノ學士
 ハ一般ニ國內ニ於テ第一流ノ地位ヲ占ムル社會中ニアリシヲ以テ其
 職業ハ公務ヲ有スル者及ヒ司法官吏タル者ハ必ス修メサルヘカラサ

羅馬法沿革史

三十七

ルモノト思考セラルトニ至レリ。貴族ノ法律上ノ事件ヲ執行スヘキ
 羅馬共和政治ノ昔ニ在テハ獨リ貴族ノミ法律上ノ事件ヲ執行スヘキ
 正當ナル時日及ヒ訴訟手續ノ方式ヲ知リシナリ蓋シ「チアス、フラボス」
 氏カ此等方式ノ類集及ヒ法律ヲ施行スル時日ノ目錄等ヲ刊行セシ
 ノ一事ハ苟モ「リビ」ヲ讀ミタル人ハ皆テ親ク知了スル所ナルヘシ
 而シテ法律講究ノ道ハ貴族平民ヲ論セス全體ノ人民ニ開カレシト雖
 凡實際之上ヲ講究セシモノハ單ニ貴族平民中稍高等ノ地位ヲ占ムル
 者ノミニ止マリシカ如シ又此等ノ學士ハ助言ヲ依頼スル者ヲ教諭シ
 或ハ保護シ又ハ訴訟ニ必要ナル手續ヲ説明シ及ヒ訴訟ニ必要ナル書
 式ヲ書キ與ヘタリ若シ法律ノ格段ナラ點ニ關シ疑問等起ル時ハ之カ
 答案ヲ附セリ且此學士輩ハ唯十二銅表ヲ註釋説明スルカ如ク公言シ
 タリト雖ヒ其註釋スル所ノ意義ハ極メテ廣濶ナルモノニシテ十二銅

表ノ精神中ニ含蓄シ得ヘキ全體ノ思想ヲ包有セリ蓋シ斯ノ如キ答案
(レスポンス)ハ勿論法律タルノ効力ヲ有セサリシト雖也彼學士輩ハ屢
訴訟依頼人ト共ニ司法官ノ面前ニ出テ其持論ヲ吐露セシカ故ニ其答
案ハ自然司法官ニ對シ現行法律ト同様ノ効力ヲ有セシコ少カラサリ
シヲ以テ遂ニ碩學ノ答案ヲ法律ノ直接根據中ニ算入スルニ至レリ
右ノ法學士中其名ノ今日ニ傳ハル者ニシテ議定官ケイトー氏及ヒシ
セロー氏ト同時代ノ人ナレセベラス、サルビニアス氏ノ如キハ特ニ吾
人ノ知ル所ノ著名ナル者ナリ爾後共和政治ノ終ニ至リ明法學士ハ普
通ノ教育ヲ受ケ且希臘派哲學ノ一斑ヲ通曉スル所ノ人ヨリ成立スル
ニ至レリ而シテ此等學士ノ勢力ハ次第ニ強盛ニ赴キ裁判官ノ判決ニ
對シ殆ント直接ニ其効力ヲ及ホスノ地位ニ至リシヲ以テ共和政治ノ
末年法律變革ニ關シ甚ク強大ナル勢力ヲ有セシナ理會スルハ蓋シ難

第十四節 自然法

抑モ羅馬法學者カ布臘哲學ヨリ引用シテ羅馬法律ノ組織ニ與ヘタル
 最大必要ナル増加ハ自然法ノ思想ナリトス吾人ハシセロ一氏ノ文章
 ニ據リ該思想ノ起因スル所及ヒ該思想ノ精神如何ニ理會セラレシカ
 ナ知ルヲ得ルナリ實ニ該思想ハ遠ク「ストイック」派「希臘學派」ノ名ナリニ
 源因シ特ニ「クリシパス」派ヨリ來リシモノナリ今「ナチユラ」〔自然〕ノ意義
 ナ尋ヌルニ「ナチユラ」トハ「天地萬象」ヲ意味スル者ニシテ「ストイック」派ノ
 說ニヨレハ此宇宙ハ道理ニ因テ引導支配セララル、モノナリト而シテ
 シセロ一氏ハ或ハ「ナチユラ」ニ代ユルニ「マンダス」ナル語ヲ以テセシ
 アリ此道理ナルモノハ斯ノ如ク或ル事ヲ命令シ或ハ禁止スルノ管理
 力ナルカ故ニ乃チ法律ト稱セシナリ然レ「ストイック」ト派ノ說ニ從フ

ニ至レリト主張セリ若シ此説ニシテ果シテ其當チ得タラノニハ英國ノ約因モ亦佛國ノ原因ト異ナルヲナカルヘシト雖モ余ハ此説ニ服スルチ得ス

以上述ヘタル如クナルチ以テ英米法ニテハ單ニ約束スルモ約因アルニアラサレハ法律上契約ノ効ナク大ニ佛國ト異ナル所アリ前ニモ述ヘタル如ク約束訴式ヲ生スル前ニハ法律上約束カ義務ヲ生スルヲカ認ムルヲナク法律ノ契約ノ効アリトスルモノハ現ニ利益ヲ得ルヲカ原因トナリテ生スル物約ノ性質アル契約ノミナリシカ約束訴式ヲ生シタル後ハ約束ニ約因ノ加ハル片ハ義務ヲ生スルニ足ルト謂フコトナレリ去レトモ約因ナキモ約束ノミニテ義務ヲ生スヘシトハ未ダ認メサル所ニシテ將來ニ至ルト雖モ斯ルヲハナカルヘシ

以上約因ノ大體ニ關スル説明ヲ爲シタレハ是ヨリ約因ニ關スル規則

夫講述スヘシ
 第一、凡テ常種契約ノ成立ニハ約因アルヲ必要トス
 常種契約ノ成立ニ約因ノ要用ナルヲハ訴訟ヲ起サントスル原告人ニ
 於テ必ス約束並ニ約因ノ兼備セルヲ證明スルニアラサレハ裁判所
 ニ於テ其訴ヲ受理セサルヲ以テ知ルヘシ去レハ商業上ノ慣習ニヨリ
 流通證書ノ場合ニハ原告人ニ於テ約因アリタルヲ證明スルノ任ナ
 シ是レ流通證書ト雖モ常種契約ノ一種ナレハ約因ノ必要ナキニハア
 ラサレハ只此場合ニハ便宜上約因アルモノト推測スレハナリ被告若
 シ約因ナキヲ證明シ得ルハ其責ヲ免ル、⁵ヲ得ヘシ是レ英米法
 學者カ一般ニ説ク所ナリ然ルニラングデル氏ハ異説ヲ唱ヘテ曰ク凡
 ソ捺印契約及ヒ記録契約ヲ除ク其他ノ契約即チ常種契約ニハ却テ約
 因ヲ必要ナリトスルハ必竟英米固有ノ法律ニシテ博ク歐洲一般ニ行

ハル手形法ニハ通用シ得ヘキモノニアラズ流通證書ニハ元來約因ニ
必要トセサルモノナレトモ英米ノ學者ハ約因アルヲ必要ナリトシテ無
理ニ約因アリト推測スルモノ、如ク解釋スルナリ元來約因ノ必要ナ
ル規則ハ流通證書ノ場合ニ適用スヘカラサルモノナルコト左ニ說明
スルヲ見テ知ルヘシ(第一)若シ約因ヲ流通證書ニ必要ナリトセハ既ニ
存在スル負債支拂ノ爲メニ將來ニ在ツテ支拂ヲヘキ手形ヲ作ルヲ能
ハサルヘシ何トナレハ後ニモ説明スルカ如ク凡ソ約因ハ結約ノ當時
ニ非ズシテ既往ニ在リタルモノハ其効ヲシトスレハナリ然ルニ英米
法ニテハ斯ル手形ヲ無効トセスシテ有効ナリトスルハ流通證書ニ約
因アルヲ要スト言フ規則ニ撞着スルモノト言フヘシ(第二)若シ流通證
書ニ約因必要ナリトセハ爲換手形ノ受取人ハ決シテ引受人ニ對シテ
訴ヲ起スル能ハサルヘシ何トナレハ受取人ハ自カラ引受人ニ對シテ

約因ヲ提供スルヲナク又手形ノ引受ヲ受クルニ就テ其他ノ人ニ約因
 ナ出スヲモナクシテ引受人ヨリ手形面金額支拂ノ約束ヲ受クルモノ
 ナレハナリト
 甲ヨリ乙ニ對シテ手形ヲ作り之ヲ丙ニ渡ストセシニ此場合ニ於テハ
 甲ヲ振出人ト言ヒ乙ヲ被振出人ト言ヒ丙ヲ受取人ト言フ丙ハ甲ヨリ
 右ノ手形ヲ受取り自ラ乙ニ持行キテ其引受ヲサシムルカ又ハ之ヲ
 丁ニ讓渡スヲアルヘシ丙其手形ヲ丁ニ渡セハ丙ヲ裏書人ト稱シ丁ヲ
 被裏書人ト言フ裏書人ハ讓渡人ト言フト同シク被裏書人ハ讓受人ト
 言フモ同シ而シテ現在其手形ヲ所持スル者之ヲ所持人ト云フ所持人
 若シ手形ヲ被振出人ニ持行キテ其引受ヲ得レハ右ノ被振出人ヲ稱シ
 テ引受人トハ言フナリ
 右手形ヲ振出スヘキ場合ハ譬ヘハ甲、丙ニ負債アリ乙亦甲ニ負債アリ

テ甲ハ丙ニ其負債ヲ拂フ代ハリニ乙ヲシテ己ニ拂フヘキ金額ヲ丙ニ
拂ハシムルニアリテ乙若シ之ヲ拂ヘハ甲ハ丙ニ對スル負債ヲ免レ乙
又甲ニ對スル負債ヲ免ル、モノトス手形ノ振出人ハ受取人ニ對シテ
手形面金額支拂ノ保證人タリ被振出人若シ手形ヲ引受ケサルカ又ハ
之ヲ引受クルモ實際拂ハサルキハ代ツテ拂フヘシト保證スルモノナ
リ而シテ受取人若シ其手形ヲ他人ニ讓渡シタルキ即チ裏書人トナリ
タルキハ亦保證ノ義務ヲ負フモノトス然ルニ若シ流通證書ニ約因ヲ
要ストセハ所持人ハ引受人ニ對シテ訴ヲ起スヲ能ハサルヘシ何トナ
レハ所持人ハ引受人ニ約因ヲ提供シタルトナケレハナリ素ヨリ所持
人ハ甲ヨリ受取ルヘキ金額アリテ其代ハリニ手形ヲ受取リタルナレ
ト右ハ引受ノアリタル前ノ事ニテ以テ約因トハナス能ハサルナリ
又乙ハ甲ニ拂フヘキ金ナク甲モ又丙ニ拂フヘキ負債ナシト雖モ融通

又爲メニ甲ヨリ乙ニ對シテ丙ニ拂フヘキ手形ヲ作り丙若シ約因ヲ得
 テ之ヲ丁ニ讓渡シタルト丁乙ヨリ手形ノ引受ヲ受ケテ之カ支拂ヲ得
 カルトハ丁乙ニ對シテ訴フルヲ得ヘシ右ノ場合ハ全ク丙融通ノ爲
 メニ手形ヲ振出シタルモノニシテ引受ヲナシタル乙ニハ毫モ甲若ク
 ハ其他ノ人ニ拂フヘキ負債ナク全ク約因ナキナリ然レモ尙ホ丁ヨリ
 訴ヘラ、ル所以ノ者ハ蓋シ手形ノ場合ニハ約因ヲ要セサル一證ナリ
 去レモ直接ノ對手間ニ在リテハ普通ノ契約ノ場合ニ均トシ譬ヘハ讓
 渡人ト讓受人、振出人ト受取人トノ間ノ如キハ通常ノ契約ト毫モ異ナ
 ラサルナリ一例ヲ舉ケテ説明スレハ前例ニ於テ乙カ丁ニ對シテ拂ハ
 サルト丁ハ甲及ヒ丙ニ對シテ請求スルノ權アリ故ニ丁若シ丙ヲ訴ヘ
 丙其金額ヲ拂フタルトハ丙ハ之ヲ甲ニ對シテ請求スルノ權アルヘキ
 筈ナリ然ルニ丙ハ約因ナクシテ甲ヨリ其手形ヲ得タル者ナレハ甲ヲ

訴フルコ能ハサルナリ是レ甲ト丙トハ直接ノ對手ナレハナリ手形若シ一タヒ約因ヲ出ダシタル第三者ニ移リタル以上ハ最初約因ナカリシモ尙ホ訟求スルノ權アルナリ是レ約因ヲ供給スルコトナキ者ハ契約上ノ權利ヲ得ルコ能ハストスル原則ニ反スルモノナリ之ヲ以テ見レハ手形ノ場合ニハ約因アルヲ要セスト言フテ不可ナキカ如シ

第二 法律ハ約因ノ約束ニ相當セルヤ否ヤヲ問ハス

負債ヲ生セシムル所ノ約因ハ負債ト相當セルヲ必要トス何トナレハ負債ノ約因ハ實ハ約因即チ契約ノ原因ニハアラスシテ百圓ヲ借りタルコトアレハ(約束ノ有無ニ拘ハラズ)之ヲ返スノ義務ヲ生シ右ノ百圓ヲ受取リタルコトカ其原因タルモノナレハナリ此事ハ負債ノ訴式ニ於ケル約因ヲ述ヘタル時ニ於テ既ニ悉シタリ其後ハ債權ノ訴式ニ於ケル然レモ今日英米法ニ於テ謂フ所ノ約因即チ約束訴式ニ於ケル約因ハ

決シテ約因ノミナ以テ義務ヲ生セシムル所ノ原因トスルニハアラス
 故ニ法律上約因アルコトヲ必要トスレヒ其果シテ約束ニ相當セリヤ
 否ヤハ結約對手ノ自ラ判斷スヘキコトニシテ約束ヲナス者ハ約因ヲ
 得ルヲ目的トシ約因ヲ供給スル者ハ約束ヲ受クルコトヲ目的トシタ
 ルモノトスルナリ之ヲ以テ法律上約因ト稱シ得ヘキモノアルトキハ
 法律ハ結約對手間ニ在リテハ約束ト約因ト同一ノ價アルモノト看做
 シタルモノトス假令局外人ヨリ見レハ十圓ノ價アルヘキ物ヲ二十圓
 若クハ五十圓ニテ買フコトアルモ買主ハ特別ノ情實アリテ斯ク高價
 ニテ買ヒタルヤモ知ルヘカラス而シテ其特別ノ情實ハ局外人ノ知リ
 得サル所ニシテ又法律ノ知ラサル所ナリ買主カ二十圓又ハ五十圓ニ
 テ買ハントノ約束ヲナシタルハ取モ直サス買主カ自己ニ取リテハ二
 十圓又ハ五十圓ノ價アリトシタルコトヲ顯ハシタルモノニシテ法律

法ヲ改良シテ勞力ヲ省約スルコト是レナリ勿論從來手仕事ナシタルニ一朝機械ヲ用ユルトカ又ハ改良ノ新機械ヲ以テ舊機械ニ換ユルトカ云フ如キハ一時勞力ヲ省クコト大ニシテ勞力ノ需用ヲ減スヘク勞力者ノ業ヲ失フモノヲ生シ尙ホ人口ノ増加シタルト同一ノ景況ヲ來スコトアルヘシ然レトモ勞力需用ノ減少生産法ノ改良ニ起リタルトキハ國家ノ富ヲ増加スルコト速ニシテ久シカラスシテ資本増加シ勞力ノ需要増加スヘク勞力者ノ困難ハ只一時ニ止ルヘシ而シテ通例ハ如此改良ハ一時ニ全國ノ諸營業ニ起ルモノニアラス漸次富ノ増加ニ伴フテ行ハル、ヲ以テ數万ノ勞力者カ業ヲ失フテ食ヲ道路ニ乞フカ如キニ至ルコトハナキモノナリ尤斯クノ如キ場合ニ於テハ手仕事ニ妙ヲ得タル精巧勞力者ハ其精巧ヲ施スノ途ヲ失ヒ普通ノ勞力者ト同一ノ勞銀ヲ以テ満足セサルヘカラサル不幸ニ陷ルモノアルハ免レ

ナル所ナリ夫以ニ爾其後ニ生ルル者ハ其ノ不幸ニ由ルル也
 既ニ述ヘタル如ク人口ノ増減ハ勞力ノ供給ト直接ノ關係ヲ有スルハ
 前ニ述フルカ如シ故ニ余輩ハ今ヨリ少シク之ヲ論ゼン元來人口増加
 ノ勢ハ甚ク熾ンナルモノニシテ之ヲ抑制スルモノナケレハ二十五年ニ
 シテ一倍スルモノナリト云ヘリ蓋シ人間ハ温帶ニ於テハ男ハ十四歳女
 ハ十三歳ニシテ己ニ生理上父母タルノ力ヲ備フルニ至ルモノ(實際ニ
 於テハ温帶中ト雖モ其地方ニ由リ多少ノ差違アレトモ)ナレハ假ニ一
 對ノ父母二十歳ニシテ初メテ子ヲ舉ケ二十六歳マテニ四子ヲ舉クル
 トセハ父母四十歳ニ至レハ己ニ一孫ヲ見ルヘク四十六歳ニシテ早ヤ
 己ニ十孫ヲ見ルヘキ割合ナリ(尤四子ハ他ニ嫁スルカ婦ヲ迎フルモノ
 ト假定シテ)豈ニ盛ンナラスヤフオトセツト氏ハ嘗テ動物中繁殖ノ最
 モ遅々タルモノヲ撰ヒ象ニ就テ其増殖ノ割合ヲ筭シタルニ先ツ其初

産ヲ三十歳トシ九十歳マテハ子ヲ設クルモノトシ一生間ニ三子ヲ舉
 グルモノトセハ一對ノ父母ヨリシテ五百年ノ後ハ千五百万ノ象ノ棲
 息スルヲ見ルヘシト云ヘリ左レハアイヤラントニ於テ千七百六十七
 年ヨリ千八百五年ニ至ルノ間其人口一倍餘ニ達シタルガ如キハ敢テ
 驚クヘキ程ノ増加トハ云難カルヘシ如此勢ナルヲ以テ他ニ其増加ヲ
 妨クルモノナケレハ諸國共ニ人間ヲ以テ充溢シ殆ント立錫ノ地ナキ
 ニ至ルヘキナリ其然ラサル所以ノモノハ茲ニ之ヲ抑制スルノ力アル
 ナリテナリ此力ヲ大別シテ四種トス

- 第一 自然ノ抑制
- 第二 人爲ノ抑制
- 第三 不時ノ抑制
- 第四 遠慮ノ抑制

第一凡ソ人間ハ衣食住ノ供給ナケレハ生活スルヲ得サルモノニシテ其供給物ヲ得ルハ土地ニアリ然ルニ土地ノ供給ハ限アルヲ以テ無限ノ需用ニ應スルニ足ラス故ニ人口増加シテ生産ノ増加之ニ應スルニ足ラサレハ十分ノ衣食ヲ得ル能ハサルヲ以テ仮令子ヲ擧クルモ生長スルコト能ハス天折スルモノ甚タ多ク從テ人口ノ増加ヲ節制スヘシ之ヲ自然ノ抑制トス

第二人口ハ増加スルニ從テ食物ノ價騰貴スヘク爲メニ生計ノ困難ヲ増加スヘシ此時ニ當リ國內ニ人口ノ未タ稀少ニシテ尙裕カナル地方アルカ或ハ外國ニ天賦ノ殖民地アルトキハ其故郷ニアリテ苦マンヨリ寧ロ移住出稼等ヲナシテ生計ヲ緩メシコトヲ謀リ其地ノ人口ヲ減スルコトアリ之ヲ人爲ノ抑制トス

第三世ノ中ニハ種々ノ出來事アルニ戰爭ハ人間ニ欲ノアル限りハ到

底免レサルコトニシテ内亂アリ外戰アリ共ニ其事件ノ洪大激烈ナル程人命ヲ損スルコト甚クシ又疫病虎烈刺等ノ流行ハ往々非常ノ慘毒ヲ恣ニスルモノニシテ殊ニ人民衣食ノ粗薄ナル身體衛生ノ不如意ナル等ノ爲メニハ病毒ヲ盛ニスルコトアリ其他平素ノ生計困難ナレハ貯蓄ノ餘力ナク凶年饑歲ニハ食ヲ得ル路ナキアリ是等ノ事時ニ發シテ人命ヲ害シ人口ノ過増ヲ防ク之ヲ不時ノ抑制トス

第四人民ノ智度上進スルトキハ事ヲナスニ前後ノ思慮ヲ生ス故ニ一家ヲ設置セシト欲セハ先ツ已レカ妻子ヲ養フヘキ力アルヤヲ顧ミルヘク只ニ之ヲ顧ミルノミナラス又能ク己レヲ制スヘシ之ヲ以テ一時ノ情欲ニ任シテ輕舉スルコトナク財ヲ積ミ資ヲ貯ヘ其力一家ヲ維持スルニ足リ敢テ我社會ノ地位ヲ下サ、ルヘキヲ見テ然ル後妻ヲ迎フヘク子ヲ設クヘキナリ果シテ如斯ナレハ早婚ノ弊モナク無謀ノ結

婚モ少ナク從テ人口ノ濫増ヲ防クヘシ之ヲ遠慮ノ抑制トス
 右第一第三ノ抑制ハ天爲ノ禍ナルカ自爲ノ禍ナルカニシテ避クヘカ
 ラス第二ノ抑制ハ人口ノ充溢ヲ漏スノ良方便ト云フヘシ然レトモ移
 住出稼等ニ出ルモノハ多クハ其地ノ壯丁ナルヲ以テ生産力ノ最モ大
 ナル勞力ヲ失フノ嫌ナキニアラス只人口ノ充溢スルニ當テハ勞力ノ
 精神トモ云フヘキ勞力者ト雖モ充分ニ其生産力ヲ逞フスル能ハサル
 モノナルヲ以テ其人口ヲ減スレハ一時ハ後ニ殘ル所ノ勞力者ノ生産
 力ヲ増加スヘク其生計ヲ緩ニスヘキヲ以テ敢テ國家ノ經濟ニ害ナキ
 ノミナラス其利タルヤ少ナラサルナリ第四ノ抑制ハ頗ル宜シキヲ
 得タルモノニシテ只ニ人口ヲ抑制スルノ結果アルノミナラス從テ生
 産ル所ノ利甚タ大ナリ第一第二第三ノ抑制ノ如キハ人口ノ増加ヲ抑
 制スルニハ相違ナキモ人民進歩ノ効驗ヨリ生スルモノニアラサルヲ

各個勞力者勞銀ノ多少

以テ從テ減スレハ從テ生ルヘク敢テ勞銀ヲ増加スルニ足ラス勞力社
會ノ改良ヲ望ムヘカラス之ニ反シテ遠慮ノ抑制ハ以テ永遠ニ勞力者
ノ勞銀ヲ増加シ人民ノ生計ヲ裕カニシ勞力者生活ノ程度ヲ進メ勞力
者ノ教育ヲ高フシ道德智識ヲ増進スル等其利益ハ枚擧ニ暇アラス不
幸ニシテ勞力者ハ無智無謀己レヲ制シ深ク慮ハカルコトナク少シク
餘力アレハ我生計ノ有様ヲ進ムルコトヲ思ハス忽チ情欲ニ制セラレ
テ無謀ノ擧ヲナスモノ比々皆然リ之ヲ以テ遠慮ノ抑制ハ中等以上ノ
社會ニ行ナハルモ敢テ勞力社會ニ行ナハルニ至ラス由是觀之ハ人口
ノ抑制ハ現今未タ勞力者ノ勞銀ヲ永遠増加スルノ實ナキモノ、如シ
勞銀平均高ノ多少ハ勞銀基金ノ大小ト勞力者ノ多少ニアルヘキハ右
ニ論スル所ノ如シト雖モ尙ホ一步ヲ進テ之ヲ見ルトキハ勞力者各個
ノ間ニ勞銀ノ多少アリ請フ今ヨリ其理由ヲ研究セン

或ル勞力者ノ勞銀ヲシテ他ノ勞力ノ勞銀ニ比シ高低アル所以ノモ
 ハ大要左ノ如シ
 第一 仕事ノ合意嫌厭甚重ノ者ハ其ノ勞銀ハ其ノ勞力ノ比シ高
 第二 學習ノ難易
 第三 就業ノ連續間斷
 第四 信任ノ大小
 第五 成功ノ確不確
 第一仕事ノ嫌厭スヘキモノ即チ不潔物ヲ取扱フトカ人情堪ヘ難キト
 カ名譽ヲ毀損スルトカ艱苦ノ甚シキトカ健康ヲ害スルトカ云フ事業
 ニ従事スル勞力ハ報酬ヲ以テ償補セサルヘカラサルヲ以テ其勞銀通
 例大ナルモノトス左レハ肥料取扱烟筒掃除屠獸穢多妓歌舞妓抗夫ノ
 如キハ割合ニ大ナル勞銀ヲ得レトモ勞力ノ意ニ適スルモノ即チ心神

老也
 谷園

ヲ快フスルトカ心ニ樂シキトカ健康ヲ補フトカ名譽アルトカ義ノ爲
メニ進ムトカ云フ如キ勞力ハ勞銀ノ外他ニ償フヘキ所アルヲ以テ却
テ勞銀ハ割合ニ小ナルモノナリ故ニ漁獵菜園耕作園丁茶ノ宗匠碁客
生花師宣教師軍人詩家文人學士等ハ勞銀ノ割合小ナリ
第二學習ノ容易ナル事業ハ之ヲ執ルニ資本モ勞力モ要セサレトモ其
難キニ從テ修業ノ爲メニ費ス所ノ歲月資金共ニ大ナルヘシ左レハ業
成ルノ後其償ヲ取ル所ナケレハ誰モ難キ業ニ就クヲ欲セス勞力ノ
供給ヲ得ル能ハサルヘシ故ニ修業ノ爲メニ費ス所ノ勞費大ナルモノ
ハ勞銀ノ割合亦大ナルヘシ是レ不精巧勞力者ノ報酬ハ小ニシテ精巧
勞力者ノ報酬ハ大ナル所以ナリ
第三勞力ノ種類ニ依リ年中間斷ナク勞働シ得ルモノアリ數々休業セ
サルヘカラサルモノアリ土方人足ノ如キモノハ需用廣キモノニシテ

假令日傭ナルモ殆ント毎日仕事ニ就ク能ハサルコトトテハナキ程ノ
 モノナルカ故ニ敢テ餘分ノ報酬ヲ要セサレトモ泥工屋根職ノ如キハ
 雨天ニハ仕事ヲナス能ハス寒中ハ休業セサルヲ得スト云フ如クナル
 ナ以テ其勞働スル能ハサル時日ニ生計ヲナシ得ル丈ノ勞銀ヲ勞働ナ
 ナシタルトキニ得サルヘカラス又唱歌師ノ如ク音聲ヲ賣ルモノハ演
 劇者ニ比スレハ未ダ老衰セサルモ業ヲ廢セサルヘカラサルヲ以テ一
 生間業ヲ執ル歲月短キモノナリ故ニ其報酬ハ演劇者ヨリ大ナルヲ常
 トス此理由ナルヲ以テ月傭ノ勞力者ハ勞銀低ク日傭ノ勞力者ハ勞銀
 割合ニ高シ又祭日祝日等ノ爲ノ年中休日ノ多キモ大ニ勞銀ノ多少ニ
 影響スルモノニシテ耶蘇新教ノ國ニテハ勞力者ハ凡ソ一ケ年三百日
 ノ勞働ヲ爲シ六十日ノ休日ノ手當ヲナセハ足ルニ羅馬教ノ國ニテハ
 法皇クレメント第十四世以前ハ一ケ年凡ソ百五十日ノ休業日アリテ

○第一科教課及受持講師姓名ハ参考科ハ科外一財產 法同上ばりまごる 法ばりまごる 土增島六一郎

○第一科教課及受持講師姓名(ハ参考科外)

第一學年

一法學通論每週法學士 山田喜之助

一契約法全二時法學士 土方寧

一私犯法同上法學士 奥田義人

一親族法全一時法學士 山田喜之助

一日本刑法全上法學士 岡山兼吉

一代理法全上米國法律學士 菊池武夫

一動產委託法全上法學士 元田肇

一組合法全上法學士 松野貞一郎

一英語學全上 菅沼達吉

●英國刑法全上法學士 澁谷惟忠

○羅馬法同上法學士 戶水寬人

●論理學全上法學士 坪井九馬三

○判決例同上法學士 植村俊平

○理財學同上 駒井重格

第二學年

一賣買法每週法學士 高橋捨六

一不動產法同上法學士 伊藤梯治

一動產法同上法學士 山田喜之助

一財產法同上法學士 增島六一郎

一證據法同上法學士 岡村輝彦

一會社法同上法學士 植村俊平

一流通證書法同上法學士 土方寧

一商船法同上 高橋健三

一治罪法同上法學士 松野貞一郎

一訴訟法同上法學士 增島六一郎

一刑擬律擬判同上法學士 菊池武夫

一判決例同上法學士 植村俊平

一英語學同上 菅沼達吉

●米國法律同上米國法律學士 シドモル

●民刑訴訟演習同上 工藤繁人

○法理學同上法學士 奥田義人

○成法論同上 高橋健三

○保險法同上法學士 伊藤梯治

○國際公法同上法學士 植村俊平

第二學年

一財產法同上法學士 增島六一郎

一破產法同上法學士 中橋德五郎

一 訴訟 法同上ばりまざる 増島六一郎
 一 保險 法同上法學士 伊藤悌治
 一 衡平 法同上法科大學 卒業生 戸水寛八
 一 沿革法理學 同上法學士 ばりまざる 増島六一郎
 一 法馬 法同上法科大學 卒業生 奥田義人
 一 國際公法 同上法科大學 卒業生 植村俊平
 一 國際私法 同上法學士 山田喜之助
 一 判決 例同上法學士 卒業生 植村俊平
 一 民擬律擬判 同上米國法律學士 菊池武夫
 一 英語 學 同上法學士 吉田直太郎
 一 憲法 法同上法科大學 卒業生 植村俊平
 一 行政 法同上法學士 江木衷
 一 米國法律 同上米國法律學士 シドモール
 一 動産差押法 同上ばりまざる リツチフヒールド
 一 訴訟演習 同上三 阪 繁人
 ○ 第二科 教課及受持講師姓名
 一 第一學年 藤則勝
 一 英法註釋 每週 法學士 山田喜之助

一 契約論 綱同上マクベール氏 法學士 馬場愿治
 一 契約 法同上アンソン氏 法學士 松野貞一郎
 一 契約 法同上スミス氏 同
 一 私犯 法同上アンターヒル氏 同
 一 私犯 法同上アゲレン氏 同
 一 私犯 法同上ストリー氏 同
 一 代理 法同上ストリー氏 同
 一 動産委託 法同上ケント氏 法學士 元田肇
 一 親族 法同上ホロック氏 法學士 山田喜之助
 一 組合 法同上スミス氏 法學士 松野貞一郎
 一 訴訟 法同上ハリス氏 法學士 澁谷慥爾
 一 英國刑法 法同上スミス氏 同
 一 商法 法同上テリイ氏 法學士 伊藤悌治
 一 法律原論 同上セボン氏 法學士 藤田隆三
 一 論理學 同上セボン氏 法學士 坪井九馬三

英米身分法

法學士高橋捨六先生著

洋製美本全一冊
定價九拾錢

十月廿五日發兌

身分法とは一に親族法とも稱し婚姻離婚を始め夫婦親子後見人及び主人奴僕等に關する法理を網羅詳論せるものなり殊に本書の高橋先生一に専修學校の教科用に供せんが爲め汎く英米の法典を參照し章を分て節とし節を分て則とし專ら簡易明解を主とせられたる著述なれり恰も一部の法典を見るに異ならず故に法律に志すの人の勿論荷も親たり夫妻たり後見人たる身分ある人の熟讀し賜ふべき良書たり尙購讀者諸君の便宜を計り目錄書并に見本を調製し置たれば左店の中へ貳錢郵券寄送次第進呈す

發賣所

京橋區銀座四丁目

博聞社

法學士山田喜之助先生著

增訂英國私犯法

第三版美裝洋本
全一冊
定價七十五錢
郵稅不受

英國私犯法ハ英米法律ノ精華ニシテ民事上ニ於ケル吾人ノ權利義務ヲ詳論シ損害賠償ノ軌範ヲ示シ他ノ諸種ノ法律ニ比スルニ原則ノ類最モ多ク且重要ナルモノニシテ法律ヲ學フ者先ツ此ヨリ悟入シ以テ法律思想ノ根底ヲ培養セサルヘカラス羅馬法佛蘭西ノ如キハ私犯法ナキニ非スト雖モ之ヲ一大法類トシテ精覈シタルモノナシ此編ハ則チ其遺漏ヲ補フモノニシテ向キニ大學法學部專門學校英吉利法律學校等其無數都鄙ノ官私法學校ノ教科用書ニナリタルヲ今般増訂ノ上第三版ヲ發兌スルニ至レリ著者ニ於テ非常ノ注意ヲ以テ前版ノ誤謬ヲ正シ有益ノ材料ヲ増加セラレ活版印刷モ亦甚ダ鮮明ナリ江湖ノ法曹一本ヲ購フテ座右ノ珍トナシ玉ヘ

發兌書舖

九 春 堂

東京京橋區三十間堀一丁目

法學士山田喜之助先生著

洋裝美本全壹册
實價金九十五錢
郵稅二十六錢

英親族法

親族法ハ夫妻親子後見人被後見人等ニ關スル一切ノ法理ヲ網羅詳論スルモノニシテ所謂身分法ト云フモノナリ而シテ本書ハ特ニ注意シテ家族ノ財産制度ヲ反覆叮嚀ニ説明シ英米古代習慣ヨリ現行法ニ論及シタレハ方今社會的ノ論議ノ盛ナル時ニ當リテハ獨リ法律家ノミナラス我日本國ノ社會ヲ再造シテ歐米ノ如クナラシメントスルノ志士ハ希クハ潛心熟讀取捨スル所アルヘキナリ

東京日本橋區久松町十五番地

博文堂

發兌書肆 原田庄左衛門

廣告

本校幹事法學士渡邊安積儀病痾療養ノ爲メ熱海ニ入浴中本月廿四日死去致候ニ付此段校外生諸君ニ告ク

明治二十年二月

英吉利法律學校

明治廿年三月十二日

(定價金貳拾錢)

持主 增島六一郎

印刷人 大谷木備一郎

編輯人 澁谷慥爾

發行所 神田區錦町貳丁目貳番地 英吉利法律學校